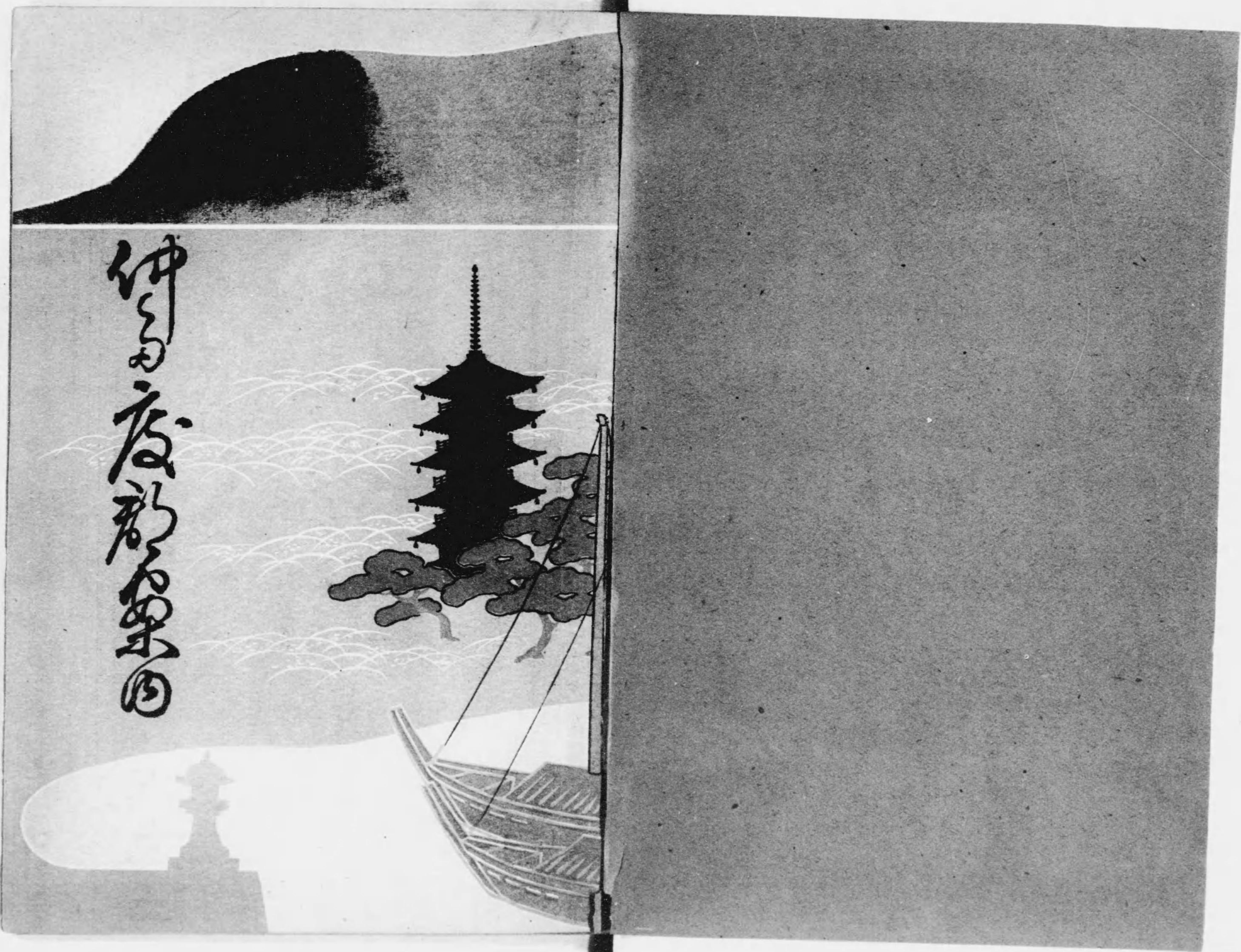


339
695

0^m 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10^{15m} 20^m 1 2 3 4 5

始





仲夏夜物語

339-695



仲多度郡長 山口利文氏題字

仲多度郡書記 大山廣太郎氏校閲

仲多度郡案内

宮武梅雅編

大正
5. 4. 26
内交

郡衙
新築
落成
を祝
す

酒醬油醸造

さくらや商店

善通寺本郷通

歐米雜貨
美術小間物

善通寺町赤門筋

商前野本店

吳服太物
洋反物

全町

商前野分店

全町

はきもの商前野支店

備中神ノ島

和洋雜貨商前野支店

專賣特許出願中受附番號
二二四二八五號
二四三五七號

硫化染料製造販賣

琴平町

シヤパンカラーズ株式會社

高松出張所
長電 二三五番

觀音寺出張所
長電 十九番

多度津町

四國水力電氣株式會社

長電 四十番

辻町出張所

三繩發電所

株 多 度 津 町
會 社 式 多 度 津 銀 行

琴 平 新 町

丸 龜 支 店

長 電 十 一 番

觀 音 寺 町 下 市

丸 龜 支 店

長 電 三 十 一 番

丸 龜 市 米 屋 町

丸 龜 支 店

長 電 四 十 二 番

三 豐 郡 吉 津 村

丸 龜 支 店

株 會 社 式 多 度 津 若 宮 町 岐 銀 行

坂 出 富 士 見 町

綾 歌 郡 飯 野 村

高 坂

柳 出

支 店

張 所

長 電 四 十 一 番

名 譽 金 領 牌 受 領 編 夕 才 丸 製 造

琴 平 町

內 田 浴 巾 工 場

長 電 十 九 番

振 替 大 阪 二 一 〇 八 七 番

優等清酒

商登商登
標錄標錄

金還 陵城

琴平町

釀造元 西野嘉右衛門

金酒 造物 長電三番部部

小間物、化粧品、筆紙墨文具
學校用品、運動具、貴金屬

神戸丸善商會
カ、シ化粧品、齒磨 縣下特約

琴平金澤町(質屋兼業)

丸井商店

店主丸井福男

電話四二番

多大の引立に依り盛況と相成難有奉謝候
尙一層勉強可致候間倍々御愛顧奉願候

善通寺町赤門大通

共立病院

電話 一 二 番

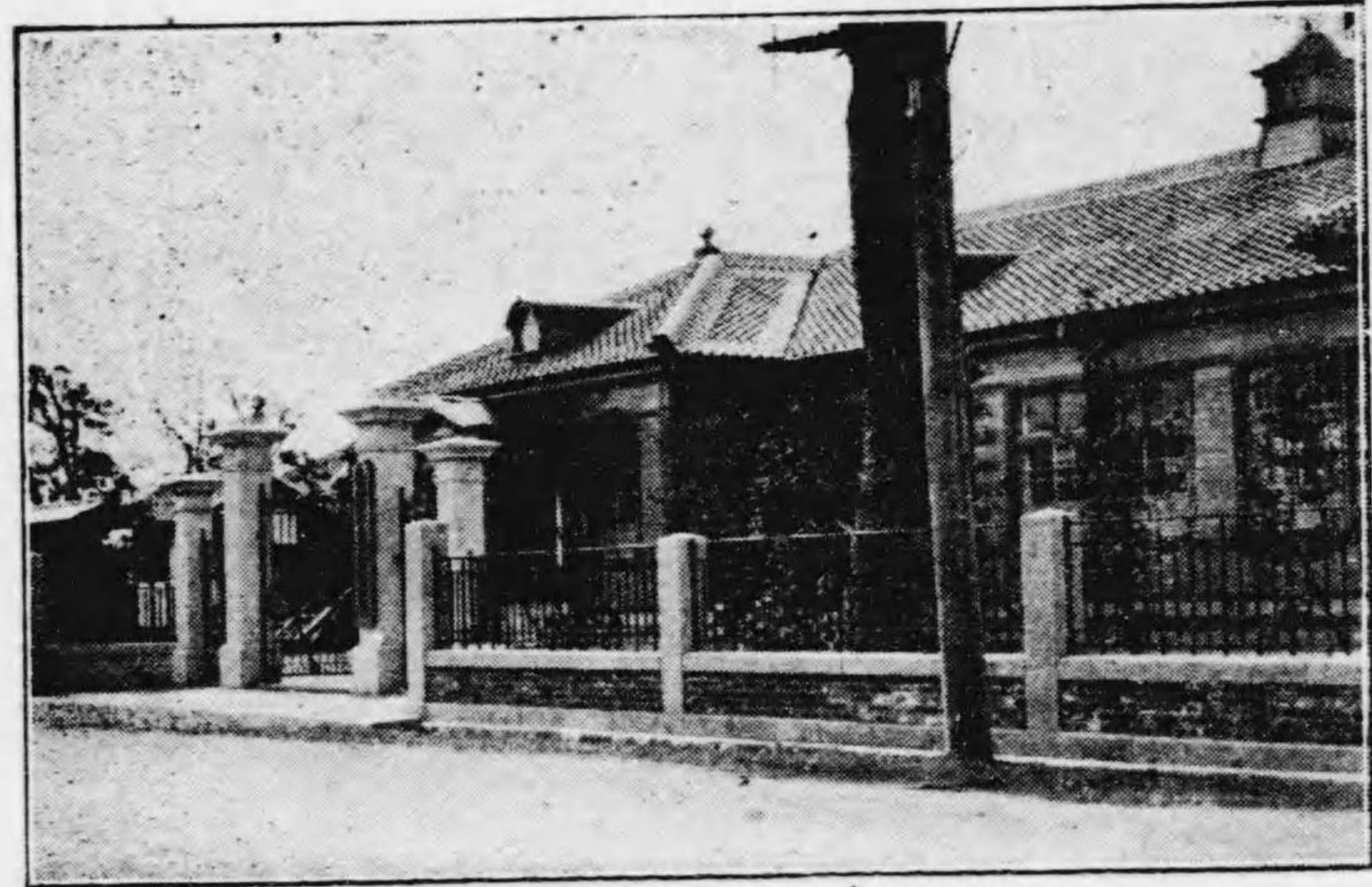
内科主任 星 野 猛

外科主任 前 田 元 治

(入院隨意)

第 一 病 院

善 鄰



(町寺通善) 所役郡度多仲



(町寺通善) 堂事議郡度多仲

新 廳 舍 落 成 當 時 郡 廳 員



郡會議長
堀家嘉造氏



郡長
山口利文氏



產牛組組長
遠山源治氏



郡農會長
山田岩太郎氏



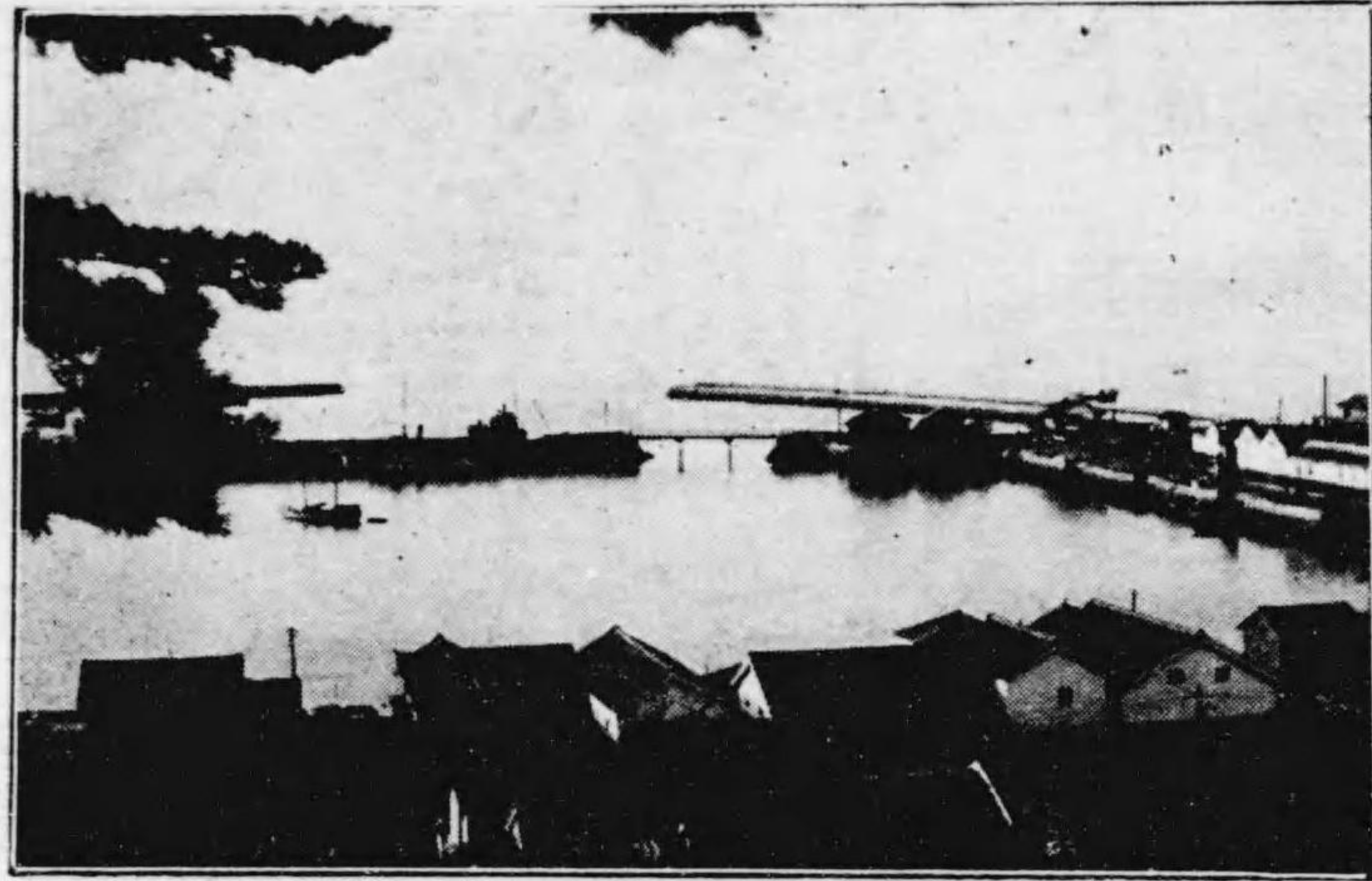
教育部長
景山甚右衛門氏



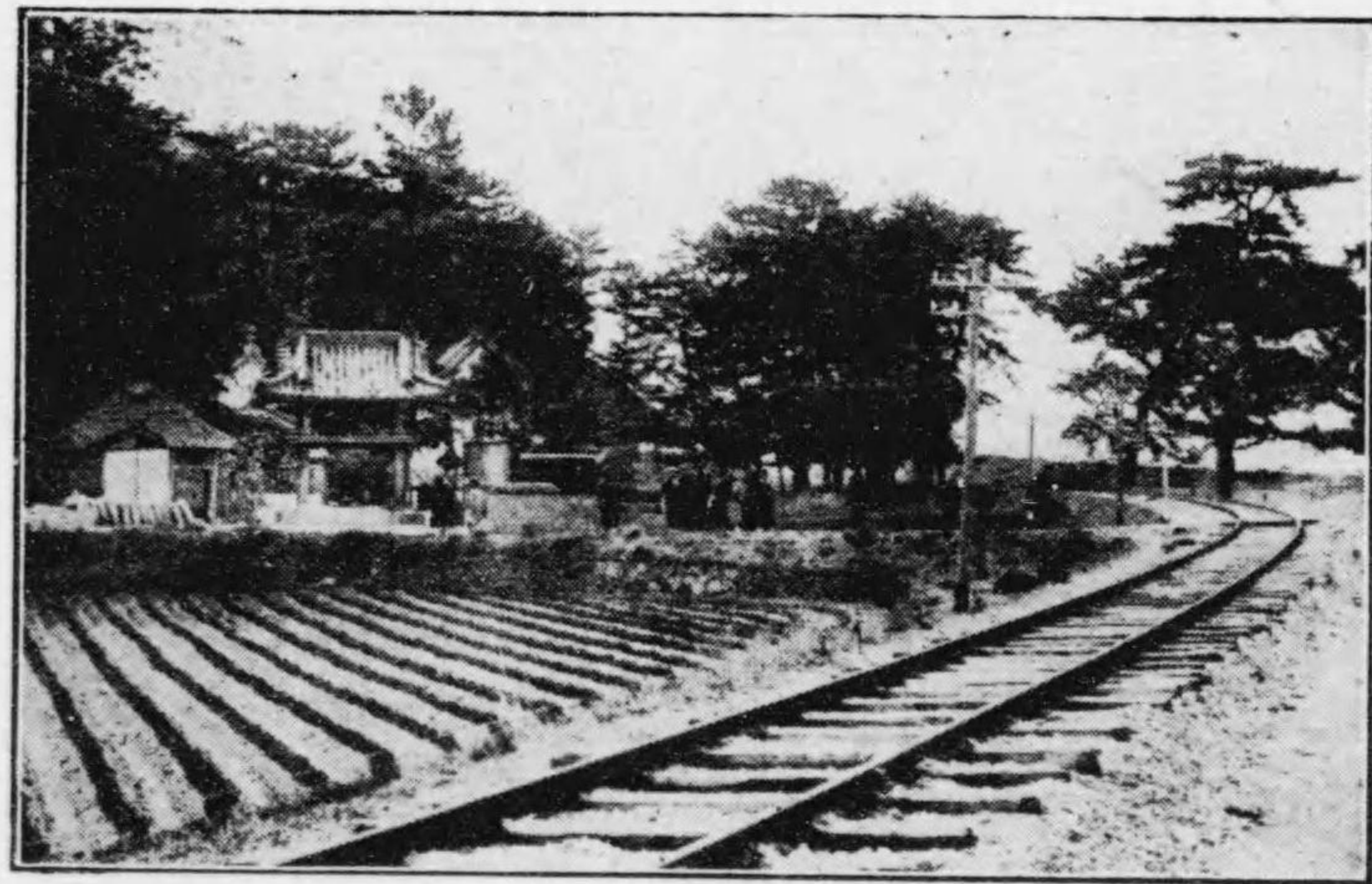
郡學視
三木常吉氏



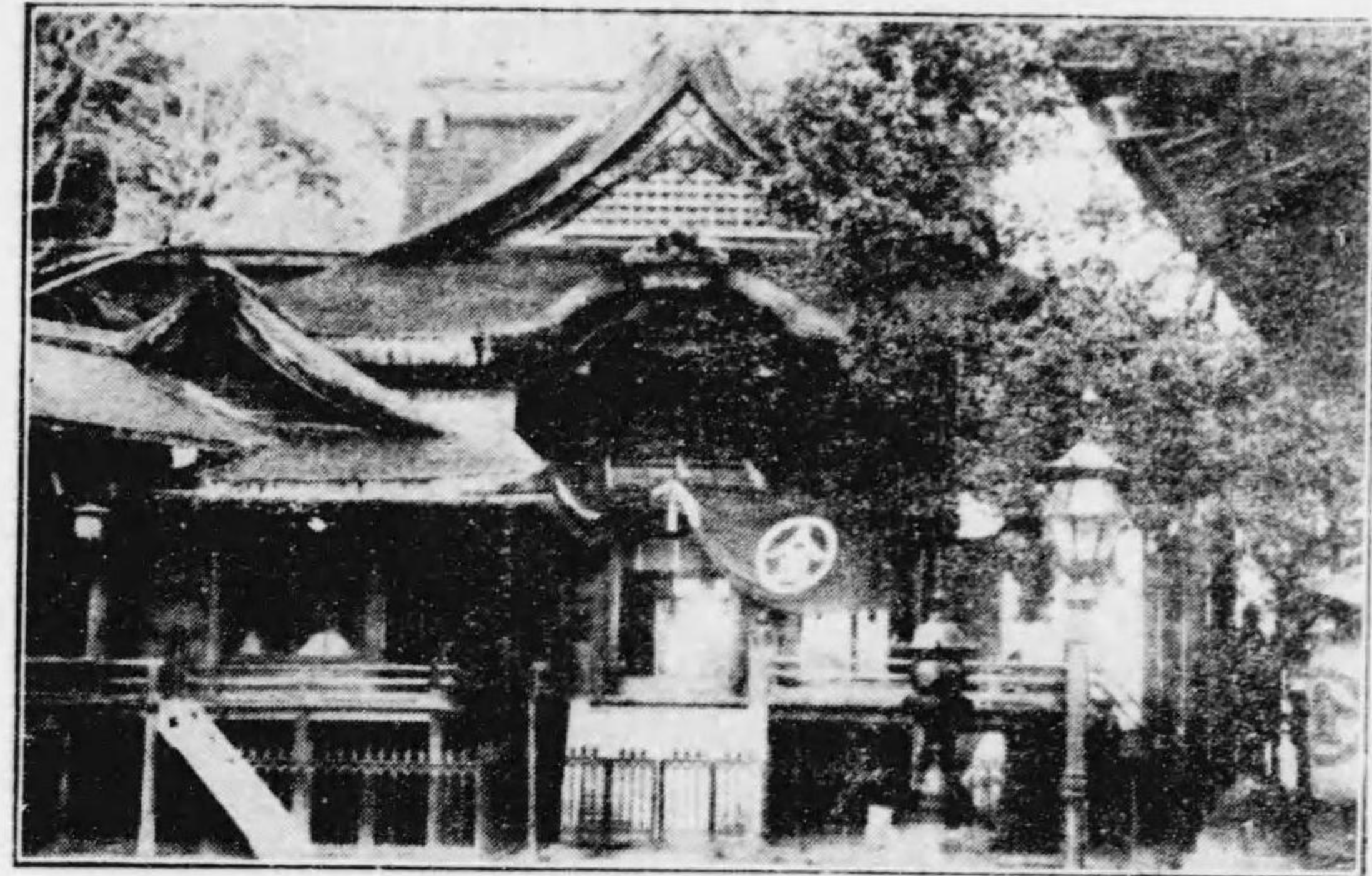
主計長
大山大廣太郎氏



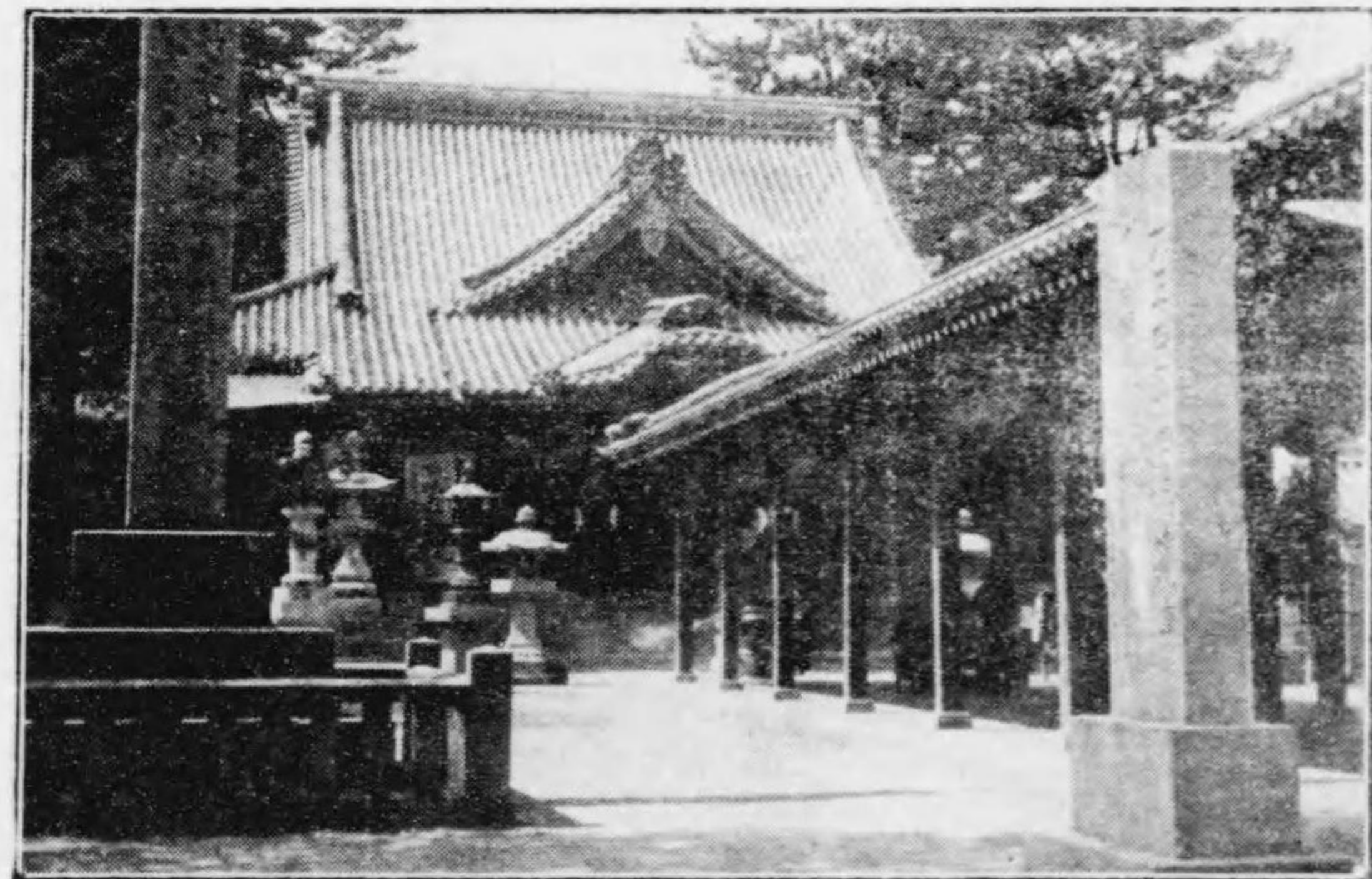
多 度 津 港



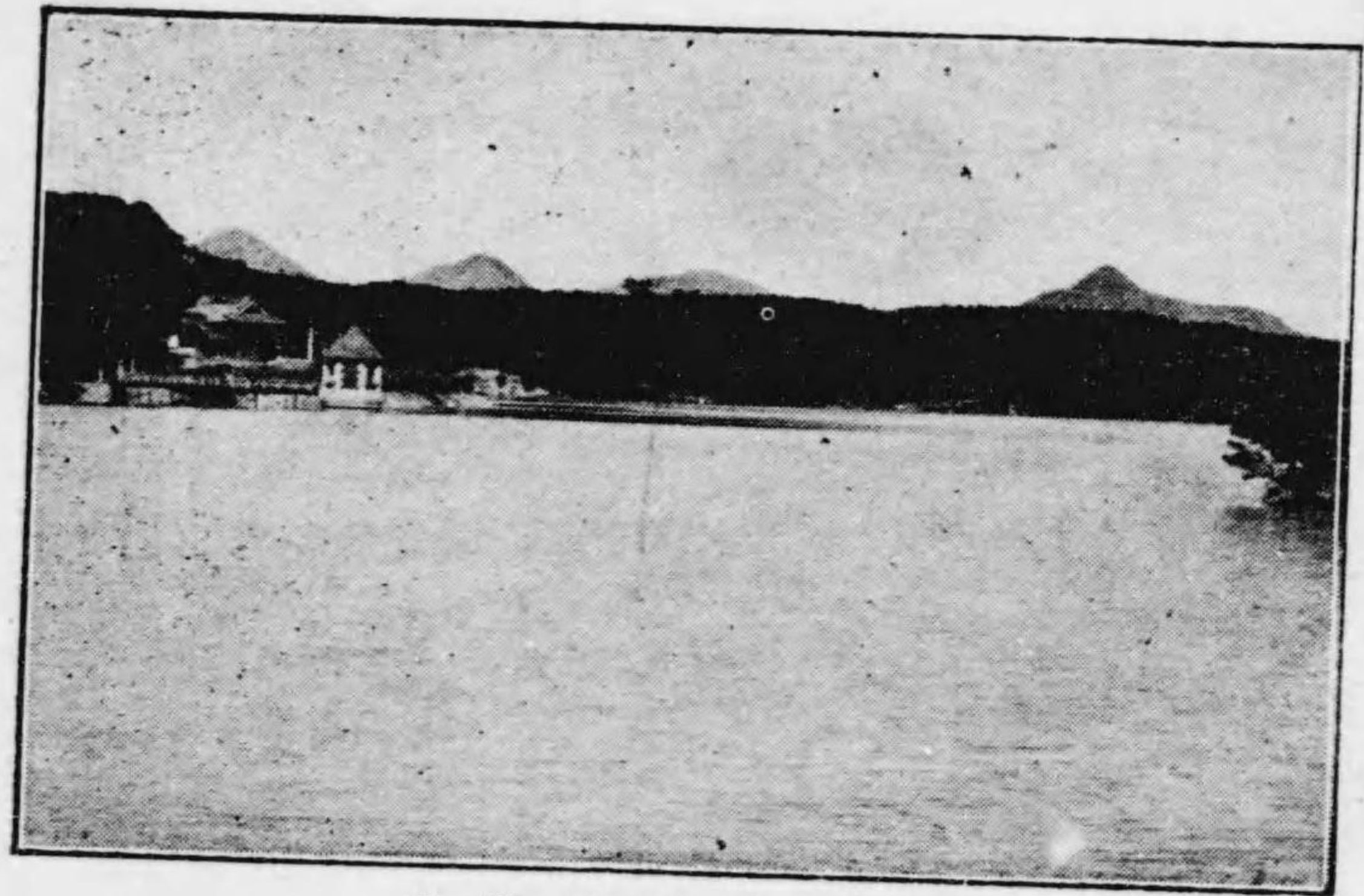
白 方 津 岸 寺



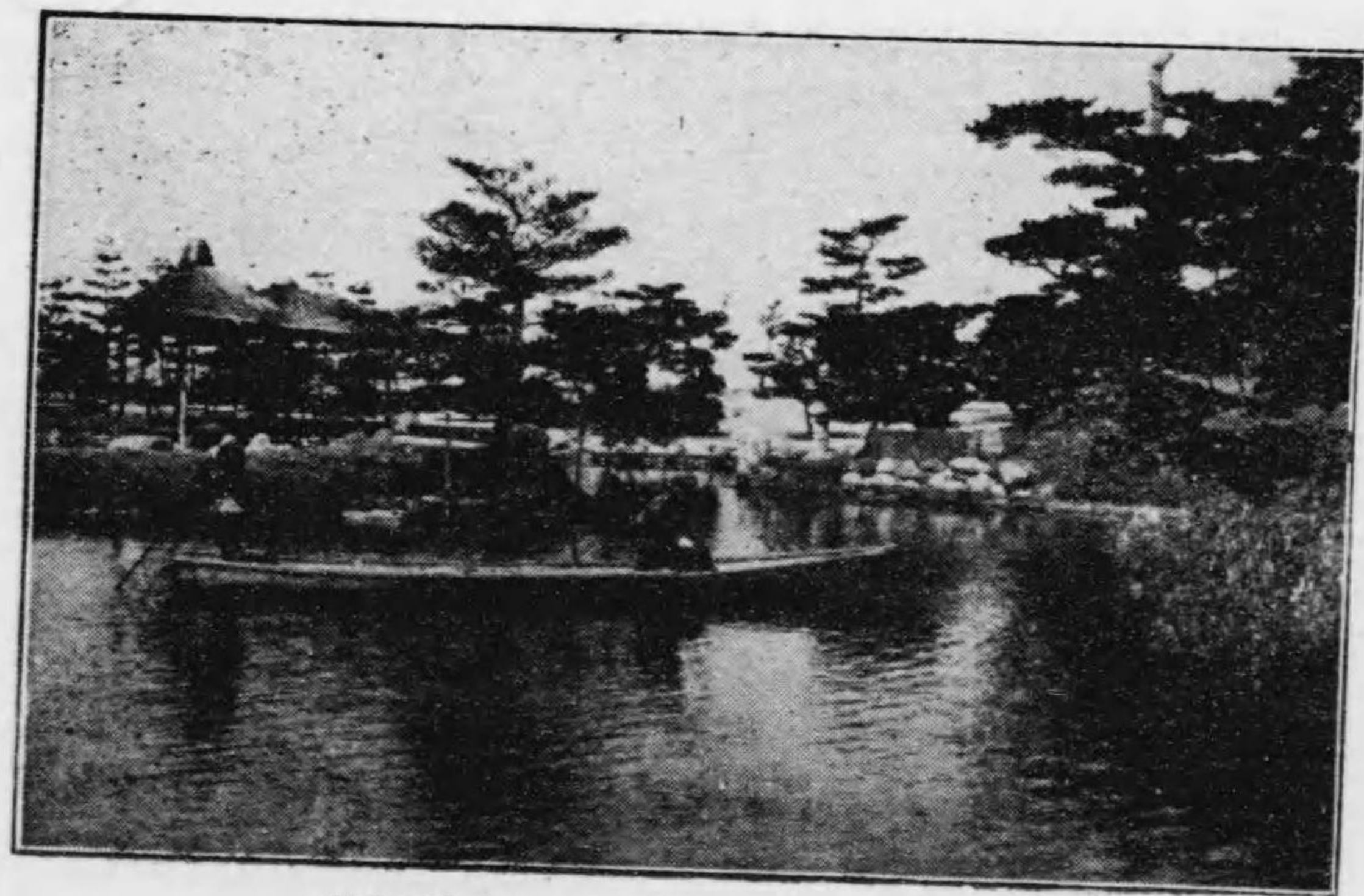
國 幣 中 社 金 刀 比 羅 宮



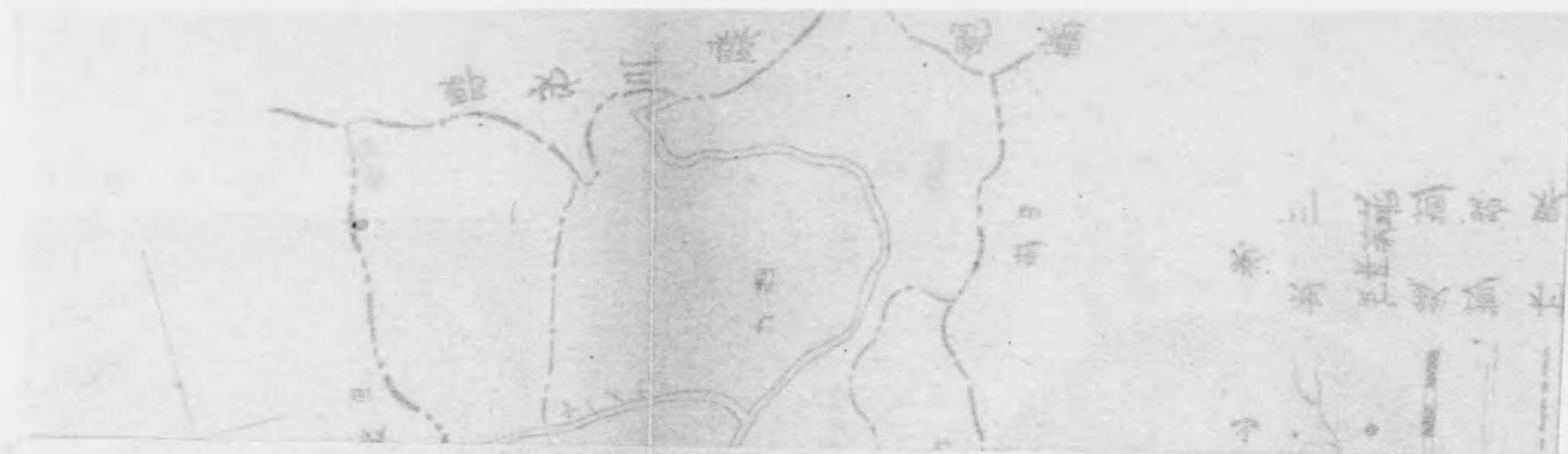
屏 風 浦 善 通 寺 御 影 堂

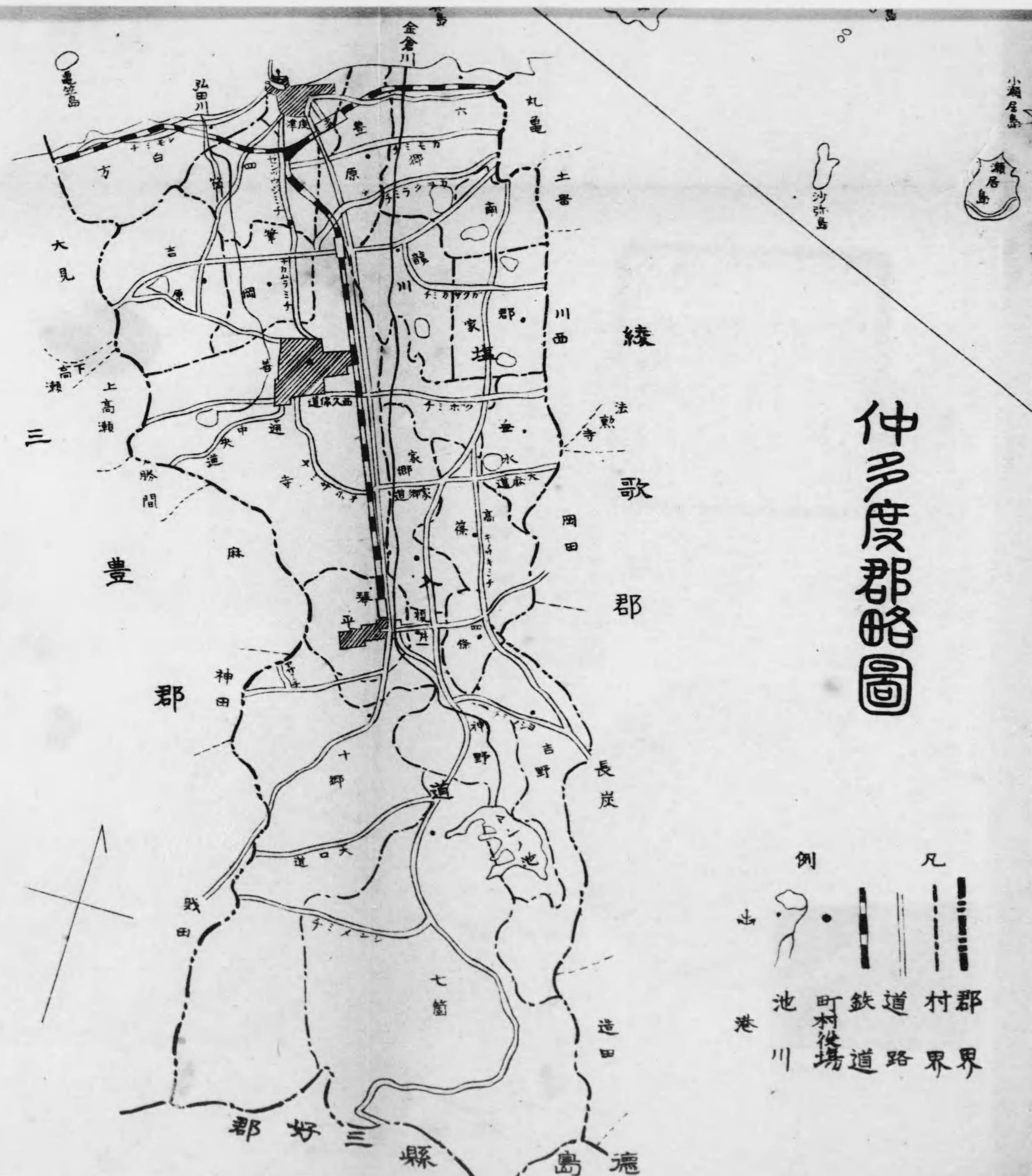


池濃縮るせ水滿



(園公津中) 園象萬

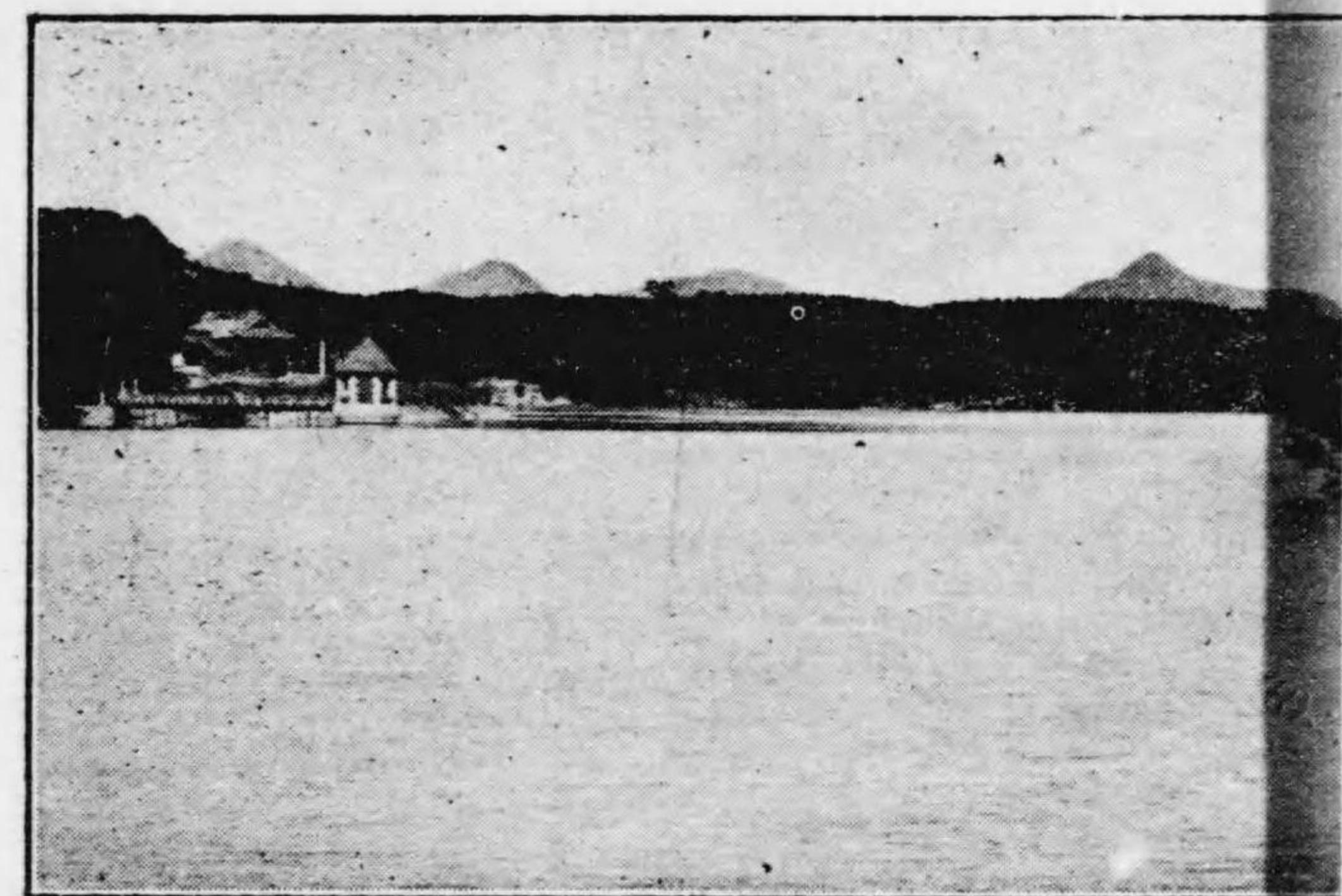




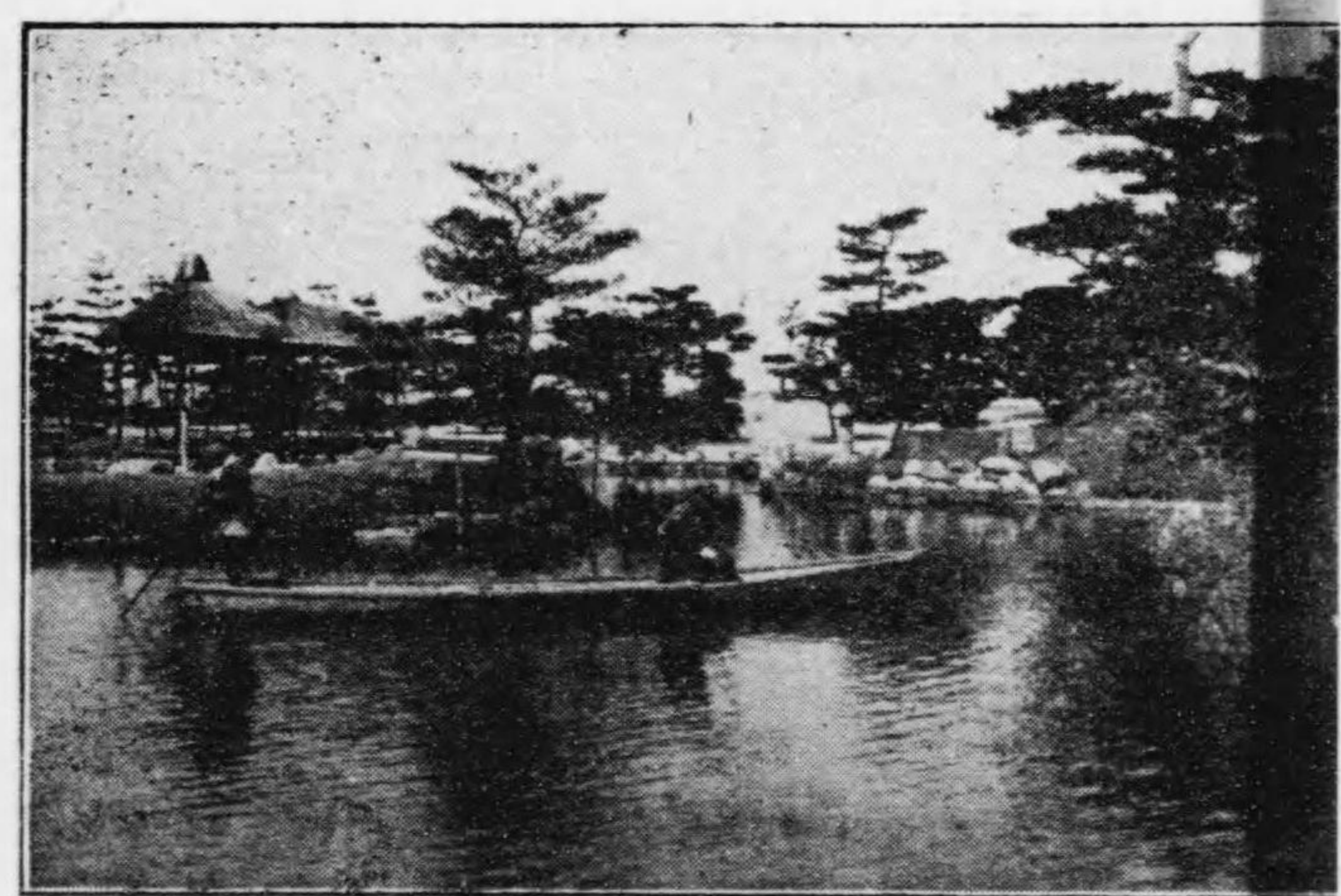
仲多度郡略圖

例 凡

池
 町村後場
 鉄道
 道路
 村界
 郡界



池濃縮るせ水満



(園公津中) 園象萬

仲多度郡案内

△總説……………一
 △位置と面積……………三
 △沿革……………四
 △交通……………一二
 ○陸路○海路
 △通信機關……………一六
 △教育……………一六
 ○小學教育 ●學級數と教員 ○實業教育 ○幼稚園 ○教員養成所 ○私立學校
 △教育團體……………二三
 ○教育會 ○體育獎勵會 ○青年會
 △宗教……………二四
 △產業……………二五
 ○農業 ○工業 ○工場 ○林業 ○漁業 ○蠶業
 ○畜産 ○郡農會
 △會社銀行……………四〇

△人物……………四六
 ○勤王 ○高僧 ○義民 ○名賢學士 ○孝子
 ○事業家 ○武勇 ○貞婦 ○友愛 ○書家 ○畫家 ○仇討 ○今人
 △名跡……………六〇
 ○金刀比羅宮 ○善通寺 ○萬象園 ○白方海岸
 ○金藏寺 ○滿濃池 ○琴平山 ○天露山
 △師團官衙……………六六
 △町村 地勢と沿岸……………六九
 ○多度津町 ○白方村 ○豐原村 ○四ヶ村 ○筆岡村 ○吉原村 ○善通寺町 ○琴平町 ○十郷村 ○七ヶ村 ○吉野村 ○神野村 ○四條村 ○榎井村 ○象郷村 ○高篠村 ○垂水村 ○奥北村 ○龍川村 ○郡家村 ○南村 ○龍川村 ○與島村 ○本島村 ○廣島村 ○高見島村 ○佐柳島村

仲多度郡案内

宮武梅雅編
 大山郡書記校閲

總説

世界の公園と稱へらるゝ日本國中でも最も真隨たる所は瀬戸内海である其中でも讃岐國は播磨と並び稱せられて夫婦國の名あり景勝に富む事古刹の多き事國の東西を問はず我讃岐に及ぶ處は他に多くなからうと言ふても敢て誇言ではあるまい。

先づ大阪神戸を出でた船が播磨灘に入り須磨や舞子の景勝を右に、千鳥飛び交ふ淡路島を左に見つゝ灘を離れるとすぐ耶馬溪と共に奇勝を以て聞へたる寒霞溪のある小豆島が見へ出して風光の美次第に加はりつゝ源平の戦で名高き屋島の古戰場八栗の五剣山等山姿自から繪の如くパノラマの如く見飽かぬ内に屢氣樓の様な玉藻城が



見へる、之れぞ則ち香川縣廳のある高松である、船は全港を出帆して尙も西に向つて進むと右に海馬の竊たる姿の様な塩飽七島を眺め左には讃岐富士と稱せらるゝ飯の山や築山の上に手文庫を置いた様な丸龜城を眺めつゝ多度津の港に入る。由來多度津港は四國中に於ける天然の良港で瀬戸内海を航行する船舶にして此所へ寄港せぬものは殆んど無い程である昔は『金毘羅船々追手に帆かけて』と謳ひつゝ丸龜の港へも随分多數の船が着いて居たか今は昔の夢となつて金刀比羅宮へ參詣する賽客の多くは皆此多度津へ下つて行くのである。それは其筈で四國中で鐵道が初めて敷設されたのは此多度津より琴平迄の間であつて嘗に金刀比羅宮の賽客のみで當時の私設鐵道會社には年々二割三割の配當をなし多額の純益を見て居たのである此多度津港が即ち仲多度郡の玄關である。

仲多度郡と云へば其名を知るもの多からざるも讃岐の金刀比羅さんと弘法大師の誕生所たる屏風浦善通寺と云へば知らぬものはなからう、殊に本郡善通寺町には四國四縣の健兒が屯せる第十一師團がある、此外郡内の名勝古刹は尙枚擧するに遑ないが漸次町村地勢案内等に於て紹介する。兎に角香川縣内に於ても最も早く開拓發展した土地であつて海陸共に交通の便なる事は他府縣に於ても類を見ない郡と云ふを憚らないのである

殊に多度津港は最近數十万の巨費を投じ築港を完成し次で鐵道の延長せられしより海陸の連絡最も利便となり實に四通八達の樞要地で旅客等も毎年其數を増加するの傾向である。

仲多度郡案内は即ち此本郡の賓客たる旅人に對し一種の羅針盤たり又一種の道案内として各方面より分解して見やうと思ふ

位置と面積

東京を起点とした國道第三十一號線が丸龜市より仲多度郡龍川村金藏寺に入り、西に走れば三豊郡を経て愛媛縣に通じ、又金藏寺より更に分岐し南に走れば第三十二號線となり琴平より徳島縣を経て高知縣に入る。

即ち仲多度郡は我四國四縣の國道の起点で香川縣下西讃の中央部に位し東は土器川を隔てゝ綾歌郡に接し西は大麻五岳の諸山を境として三豊郡に隣り、南は阿讃山脈を分界として徳島縣三好郡に連り北方塩飽諸島は僅かに一葦帶水を隔てゝ近く岡山縣兒島半島と相呼應す。

地形は南北に長くして九里十四町、東西僅かに二里十一町で概ね北に傾斜し南方阿讃山脈の起伏せる數ヶ村を除くの外郡の中央部に只如意山の雌臥するのみ他は總て土地平坦氣候温和、戸數稠密、土壤肥沃にして、面積十三方里に對し戸數一万九千百六十戸人口拾万三千二百二人を有し金倉川、弘田川あるも流域至て短く水利の便に乏しき故に滿濃の大池其他數百の溜池を利用して能く灌漑に便し最も農業に適し産物優良にして産額尠からず海邊には食鹽を産し島嶼近海亦魚介の利に富み農工商品の生産額は一ヶ年約六百二十拾七万餘圓に達して居る

沿革

仲多度郡は元那珂、多度の二郡を合したるものにて那珂郡の名は慶雲五年の紀に見へ多度郡の名は延暦八年の紀に見ゆ

上古は忌部氏の輩南部より開拓して居住したるもの、如しと雖も其狀況を詳にする能はず、唯景行天皇の朝神櫛王始めて讃岐國造に任せられ、又武毅王封を阿野郡に受けしより其子孫讚の東西に別れ植田、寒川、高松氏等は神櫛王の裔にして東讚に住し香川、香西、那珂氏等は武毅王の後裔にして西讚に住し本郡は此等豪族の領

有する所たり而して武毅王は綾君の始祖にして本郡内和氣氏等は其末裔ならんか孝徳天皇の朝國司、郡司を置きたるも當時本郡の狀況如何なりしや之れを知る能はざるも寧樂朝より平安朝の始に於て阿刀大足、僧空海等の學士、高僧を出せり、空海は弘仁年間滿濃池を築く等此時代に於ては大に地方の發達を遂げたるものあらん源頼朝幕府を開きしより諸國に守護地頭を置きてより本郡も其支配を受る所となり更に吉野朝時代の那阿郡は讃岐藤橘諸黨の占有する所となり多度郡は詫間氏の領地となり鹽飽島は宮本佐渡守の根據地たりしが細川頼之四國を平定するや那珂郡は宇多津城主奈良之安に多度郡は雨霧城主香川景則に與へたり鹽飽島宮本等は後海賊に與し支那及朝鮮沿岸を震慄せしめ世に八幡船と稱するもの、棟梁となりたる説あり天正六年長曾我部元親土佐より起り破竹の勢を以て讃岐に來り雨霧城主香川之景等降り宇多津城主奈良元政戰死し元親與北城(今の與北村)を修築して中島與兵衛をして成らしめ猶進んで諸城を攻め降將を殺し當時神社佛閣の其難に遇ひたるもの多かりしと云ふ

天正十一年豊臣秀吉其臣仙石秀久をして長曾我部元親に當らしめ十河存保と共に治めしむ秀久宇多津聖通寺山城に居りしも故ありて尾藤甚右衛門に與へ仙石、十河二

氏の封を合せ食ましむ幾もなく讒に遇ひ國除となり更に之れを生駒近規に與へたり
天正十五年生駒氏は封を讃岐に受け高松を築き之に居る文録元年征韓の役に從ひ近
規は第六軍に將として之に從ひ塩飽島の宮本、妹尾吉田等島民を率ひ兵戰操縦の任
務に服す秀吉其功を賞し塩飽七島を無税として船方六百五十人に賜ひ維新前まで其
恩恵に浴せり

慶長五年關ヶ原の役近規の第一子一正は徳川家康に從ひ戰功あり父の封を繼ぎ丸龜
城を築き之に居る、後高俊の代に至り謫せらる

寛永十八年山崎甲斐守家治に丸龜城を賜ひ多度三野豊田那珂郡の内二十一村鶴足郡
の内一村高五萬三千石を領せり

寛永十九年松平頼重高松に封せられ東讃及鶴足、那珂兩郡の内にて十二萬石を食む
明暦三年山崎家は二代にして嗣なく後絶す

萬治元年京極高和播州龍野より丸龜に移封せられ山崎家の所領を襲ふ當時本郡内の
領分左の如し

京極高和所領

舊那珂郡の内二十一村

今津、津ノ森、鹽屋、上金倉、下金倉(六郷の内)佐文、買田、宮田、追上、山脇(新目、本目、後山、
帆山、生間、大口(十郷村の内)福良見(七ヶ村の内)中府(丸龜市の内)田村、山の北(南村の内)櫛梨(象郷
村の内)

舊多度郡二十四村二四

(善通寺町、筆岡村、吉原村、四ヶ村、白方村、多度津町、豊原村)

松平頼重所領二十村

(那珂郡の内京極所領以外の各村)

幕領

苗田(象郷村の内)七ヶ村、榎井村、鹽飽諸島)

元祿七年丸龜藩主京極高或幕府に請て弟高道を多度津に分封し高一萬石を讓る郡内
の所領左の如し

高極高道所領

舊多度郡の内十五村

多度津、新町(多度津町)堀江、北鴨、南鴨、葛原、道福寺(豊原村)庄、青木、山階、三井(四ヶ村)西白方
奥白方(白方村)碑殿(吉原村の内)

高松藩は初代頼重より十一代頼聰、丸龜藩は初代高和より七代朗徹、多度津藩は初

代高道より六代高典にして明治二年共に封土を奉還し各藩主は更に其藩知事に任せられ同四年丸龜、多度津兩藩知事は廢藩置縣の議を建白し納れられ高松藩も共に廢せられ縣を置き又其縣知事に任せられたるも多度津のみは置縣のことなく倉敷縣に屬せらる同時に京極高典多度津藩知事を免せられ同年四月多度津を發し東京に移轉ありたり

同年十一月各縣を併せ香川縣を置き讃岐一門を管せり管内を八十八區に分ち每區に戸長を置く同六年一月廣島鎮臺歩兵第十二聯隊を丸龜に置く同年名東縣に屬す同七年行政區畫を改め十二大區八十八小區とす同八年再び香川縣に復し同九年更に愛媛縣に合す同十一年郡區改正に依り那珂、多度の二郡を一區畫として丸龜に郡役所を置き三橋政之郡長に任せらる爾來郡長の交迭左の如し

三橋政之(自十一年十二月至十六年十一月)

豐田元真(自十六年十一月至十七年三月)

福家清太郎(自十七年三月至十七年十月)

心得郡書記

關忠邦(自十七年十一月至十八年三月)

豐田元真(自十八年三月至二十三年十一月)

高島光太郎(自二十三年十一月至二十七年十月)

神方恒(自二十七年十月至二十九年十二月)

藤好乾吉(自二十九年十二月至三十年十一月)

近藤縮往(自三十年十一月至三十二年一月)

白石修太郎(自三十二年一月至三十四年五月)

松崎次郎(自三十四年五月至三十九年一月)

伊熊貞實(自三十九年一月至四十一年九月)

竹田定(自四十一年十月至大正元年八月)

植田行忠(自大正元年九月至二年三月)

乾貢(自二年四月至三年三月)

の十五氏を経て現郡長山口利文氏に至る

同二十一年三度香川縣に復し二十三年市町村制を實施す町村の分合左の如し

新 郷 村

丸 龜 町

舊 稱

今津、上金倉、新田、鹽屋、下金倉、津森、字三軒家

御供所、北平山町、瓦町、風袋町、葭町、米屋町、松屋町、魚屋町、宗古町、通

町、富屋町、鹽飽町、南條町、横町、濱町、福島町、一番町より十番町迄)中府

村、地方村、土居村、津森村の内

(三十一年四月)
丸龜市となる

交通

本郡は前に総説に於ても述べた如く陸海路共に交通の便なる事は他に類を見る能はざる程四通八達の樞要地で鉄道は郡の中央部にあり何れの村何れの町に至るも国道と縣道と郡里道とによつて蜘蛛の巣の如く開通して居るので村から村町から町何れへ行くも車馬の往來せざる處はない立派な道路がある筈に郡の南方に聳へ立つ阿讃山脈峯巒の重疊として又其分岐山脈も多きか故に此の中に村をなして居る七ヶ、十郷の両村のみは聊か坂路の難はあるなれど交通に不便を見る様な事は毫もなく馬車でも自轉車でも下車せねばならぬ様な處は一つもない

陸路

△鉄道 東は高松、西は愛媛縣川之江より本郡を中心として官鉄線がある、郡内の停車場として海岸寺、多度津、金藏寺、善通寺、琴平の五驛あり尙進んで琴平よりは徳島縣池田を経て高知縣に通する猪の鼻線なるものも最近貫通すると云ふ計劃もある又軍事上から言つても旅客の利便上から言つても此線をとらねばならぬ筈である

△国道 本郡の東北端丸龜を起点とした国道第三十一號線は六郷村龍川村を経てしかも郡の中央部たる金藏寺より丁字路となつて分岐し第三十一號線は善通寺筆岡吉原を過ぎて

三豊郡に入り、愛媛縣に通じ第三十二號線は善通寺、琴平、十郷を過ぎて三豊郡に入り徳島縣、高知縣に通じて

上道線と更に高松より丸龜を経て多度津に通する下道線とが郡の東西を一貫し金藏寺線大日線詫間線吉原線等によつて隣郡との交通に便し里道は善通寺道、中村道



陸送業 後根運酒店

讃岐線善通寺驛前
(電話 一五番)

帝國鐵道院貨物取扱店
日本運業株式會社取引店
天龍運輸株式會社取引店
三井物産株式會社取引店
大阪商船株式會社專屬荷扱店
大計興信部加盟店
常盤生命保險株式會社代理店
第十一師團御用達

△縣道及里道 縣道は高松より琴平に通する

一四
鴨道、額坂道、久保道、下道、大麻道、象郷道、中央道、塩入道、全支線、木崎道、吉野道、新目道、大口道、麻道、白方道、西久保道、金倉道、海岸寺驛道、多度津驛道、本島道、廣島道、瀬居島道等何れも立派に改修せられて縣道に譲らぬ程のものが數へ切れぬ程もある。之れに河川のある處は何れも堅牢な橋梁が架せられて居て何れの道路も草を生へて居る様な處はない所謂交通は頗る頻繁である

海路

△港灣 北方一帯内海に面し西讃東豫の關門たる天然の良港多度津港にしかも數十萬金を投費した築港が郡の咽喉を占めて居るのであるから海路の交通は論を俟たざる次第で毎日晝も夜も多度津港に汽船の寄港して居らぬ時は更になく有様である尙此外に丸龜よりも毎日午前九時午後三時との二回下津井輕便鐵道との連絡船が定期航海なしつゝありて郡内に屬する島嶼にも寄港するので離島の各村へ往復するも決して不便を感じる様な事はない
△定期汽船 多度津を發する汽船は毎日其數夥たしきものなるが今定期船として寄港し居れるものゝみを掲げんに

鐵道院尾道連絡 毎日午後六時二十分多度津出帆(東豫丸航海)

大阪商船會社

神戸大阪行 毎日午前三時より五時迄に二回
毎日午後二時より七時迄に四回

今治、高濱、長濱、川ノ石、八幡濱、宇和島、深浦、宿毛行 毎日午後十一時半

中國各港を経て關門行 毎日午前四時

今治、高濱、長濱、守江、日出、別府其他各港を経て内海行 毎日午前五時

觀音寺、川の江、三島、新居濱、四條、壬生川、今治、高濱、郡中、門司行 毎日午前七時

玉嶋行、毎日午前九時午後六時兩度

尼崎汽船會社

神戸大阪行 毎日午前十時午後四時
午後八時午後十時 四回

中國を経て關門行 毎日午後十時午前五時二回

今治高濱宇和島行 毎日午後十一時半

關門、博多、長崎行 隔日午後五時

東豫各港今治、三津、關門行 隔日午前四時

下津井、下村、田ノ口、日比、岡山、阪神行 毎日正午

其他住友汽船、東豫汽船等の定期航海多數あるも略す

通信機關

一六

本郡内に於ける通信事務は丸龜、多度津、善通寺、琴平、榎井、金藏寺、筆岡、高篠の九郵便局で取扱はれて居る就中多度津局の如きは明治四十三年頃迄は四國の監督局であつた程で其他も丸龜、善通寺の兩局は二等局で今でも多度津には特定三等局が置かれて居る右の内榎井、金藏寺、筆岡、高篠の四局は無集配局で其他本島を除く各局は電信事務をも扱つて居る、尙此外に各停車場に於ても電信事務を取扱ふて居ると云ふ有様で通信機關も先づ完備して居る方だが嘗に島嶼のみは電信がないので不便な地位に立つてゐる。又或村落によると一日一回の配達に止まる處もあつて聊か地方民の満足し得ぬ處もあらうが之れ等は極々僅かの區域であつて郵便物數の上から止むを得ない事であらう。尙多度津、善通寺、琴平には電話が架設されて居て何れの方面へでも通話が自由である。

教育

本郡の教育界は逐年進歩發達し小學教育は勿論實業教育、中等教育、女子教育等も

漸次發達して敢て他郡に遜色なき成績を擧げて居る左に各方面に涉つて其概略を叙べて見やう

□小學教育 郡内の小學校は現在三十七校あつて内單獨高等小學校が一、尋常高等小學校が十九、尋常小學校が十七其外に分教場が四ある、在學兒童數が尋常科男六千六百十、女六千四百四十六、合計一万二千七百五十六にして高等科男九百八十八女四百五十合計千四百三十八で學齡兒童の就學歩合は百人に對し九十九人五分と云ふ成績を示して居る

町村數に比して學校數の稍多きか如き觀あるは地勢の關係上高部地方に一村數校の設置あると善通寺町の如き大區劃をなして居る町に四校と云ふ多數の學校を有して居るが爲めで其他の町村は大抵一町村一校となつて居る。生徒の出席歩合は高等科は頗る良好の成績を示して居るが尋常科は百分比例で九十五人五歩五と云ふ歩合で欠席の多いのは島嶼の漁村と農家の繁忙期に家事手傳が多いのである爲めで當局者は之れ等に對して大に奨勵に努めて居る

□學級數と教員 學級數は高等の部四、尋常高等の部尋常百〇五、高等三十四、尋常の部百五十八で合計三百一學級を有し教員數は高等小學校在職者本科正教

員三十九名専科正教員七名准教員三名代用教員六名で尋常小學校在職者本科正教員百九十九名専科正教員十五名准教員五十七名代用教員十六名で総員三百四十二名である

一八

□實業教育　としては元琴平工業徒弟學校あり又多度津染織學校ありしも之れ等は目下廢校となり現時各町村に補習學校の設けありて其數二十三校に上つて居る之れが學科は重に商業、農業、工業、裁縫、手工、家事、普通學科等で何れも良好の成績を擧げて居るが此外に本島村外四ヶ村組合立で鹽飽工業學校と云ふのがある該校は明治三十年の創立に係り最初は鹽飽工業補習學校と云ふのであつたが全四十四年主務大臣より設置開校の認可を受け現今の名稱に改め徒弟學校規程に基き善良なる木工業職工たるに必要な學理及技術を教養して居る、在學生徒は目下七十九名で郡内は勿論隣郡及岡山縣、徳島縣あたりからも入學してゐる、卒業後の成績は何れも良好で各府縣の大工場等に奉職して居るものが澤山ある。授業料は十五錢で修業年限は三ヶ年本科と別科の二科に別れて居て教授科目は修身、國語、數學、理科、圖畫、材料工作法、体操、實習等で現任校長は中川萬次郎氏である

□幼稚園　幼兒の保育としては多度津町に町立幼稚園あり園兒百十九名を有し

善通寺町に私立幼稚園あり園兒五十八名を有し何れも良好なる成績を示して居る、多度津幼稚園は明治三十二年の設立にかゝり善通寺幼稚園は全三十八年に設立したるものにて經營者は松浦英治、神原六朗、大喜多友八の三氏なり

□教員養成所　郡内小學校教員の充實を圖る第一階梯として尋常小學校准教員の資格を得るに須要なる程度の教育を施さんが爲めに明治四十一年創立したるものにて修業年限を二ヶ年とし第一學年の定員男女通じて約四十名とし第二學年は其中師範學校に入學したるもの及檢定試験に合格して奉職したるもの退學したるもの等を除きたる殘員と目下在學生六十二名を有し教科目は修身、教育、國語、算術、日本歴史、地理、理科、圖畫、音樂、体操、裁縫等にて教師は所長猪熊八太郎氏外教諭一名助教諭二名囑托教師二名である

私立學校

□盡誠中學校　本校は明治十七年故私立盡誠舎長大久保彦三郎氏が誠實有爲の人士を養成するの目的にて本縣三豊郡財田村に忠誠塾なるものを設立したに淵源し全二十年忠誠塾を京都に移し私立盡誠舎と改稱し自ら舎長となり外に數名の教師を

一九

置き普通教育を授けると共に高等學校豫備科を設置し高等専門の學術を修めんと希望するものゝ爲に特に必要なる學科を教授し居りしが更に全二十七年に至り本郡四條村に移り校舎を新築し普通教育の課程を教授し地方教育界に大に貢獻する處ありしが全三十年善通寺町に第十一師團の設置を見るに至り全地方に中等普通教育を授くべき學校の設備なきを憂ひ全三十二年更に現在地たる善通寺町に移轉し専ら中等普通教育の課程を授け尙新たに師範部女子部等を置き本縣教育界に對し大に盡す處ありしも大久保氏は全四十年逝去さるゝに至り嗣子大久保直廣氏其後を繼ぎ教務を掌理する爲教頭を置き益々改善發展を謀り四十一年新校舎を増築し四十二年私立盡誠舎組織を變更し私立盡誠中學校設置の申請書を文部大臣に申請し四十三年三月文部大臣より開校の件を認可せられ現今に至れるが創立以來三十幾年の歴史を有する全校は當初以來入つて學を修め業を卒へたるもの實に三千餘名の多きに上り其内最高の學府たる帝國大學及私立大學を卒業し現在樞要の地位にあるもの又は社會の各方面に活動しつゝあるもの其數幾何あるかを算するに遑あらず、現時校長中山米藏氏以下職員十五名生徒百七十一名にして今後日を追ひ月を進めて發展を謀りつゝあり

□善通寺女學校

本校は日露戰役

に於ける國運の推移と、經濟的發展の傾向とを察し品位ある實用的主婦を養成せんが爲めに古市カチ古市保太郎の姉弟私費巨額を投じて善通寺町へ私立靜修裁縫女學校なるものを設立し現時の校舎を新築して全四十年私立靜修女學校と改稱し専ら實用的女子教育を授けつゝありしに淵源し現校長古市由藏氏校主カチ子に配されて以來益々全校の向上發展に努め熱心に訓育施設方法を定めて地方女子教育の爲めに貢獻する處あり全四十四年文部省に申請して實科高等女學校の認可を得修業年限を本科四ヶ年選科二ヶ年補習科一ヶ年とし教科目を修身、國語、算術、



善通寺實科高等女學校

地理、歴史、理科及家事、圖畫、唱歌、体操、裁縫等となし最も平民主義を鼓吹し實科を重視せしめ習慣の善導に努めつゝありて其成績頗る顯著なるものあり、爾來卒業者を出すこと大正四年三月を以て百九十六名を算し今や將に四十二名を出さんとせり而して之等の多くは家庭の主婦となりて教養の本旨を發揮せるあり未だ嫁せずして其準備に移むあり其他家庭の都合上本人の志望の轉化によつて他の方面に活動せるあるが何れも郷黨の範を示する實用的婦人たらざるはなく益々全校の前途有望なるを目されつゝあり現校主古市氏も自分個人のものとの念更になく之れを一般社會に提供して地方女子教育の爲めに盡さんとの意なるより決して全校に私立的校風などあるべき筈なく社會の同情も日に加はりつゝあり目下の校舎は二階建七十坪の講堂を初め平屋建二百三十四坪を有せるが更に大正四年より御大典記念として校舎の増築に着手し即ち八十八坪の生徒控場兼体操場は今や既に落成を告げ大正五年度に於て寄宿舎の新築を爲し六年度に於て本館裏手の平屋建を取崩し新に教室を設くる爲め二階建百十五坪の工事を起す由なるが其工費總額は約一万二千圓の豫算なりと

教育團體

□教育會 仲多度郡教育會が唯一の教育團體で會員四百八十一名を有し毎年度事業計畫を定めて講演、巡回文庫、常設通俗講習會、展覽會、學術に關する實驗音樂會、圖書館、新聞雜誌、圖書閱覽所、教育的講談、活動寫眞、幻燈等を開催し社會教育上に貢獻する處あり或は教育上の功勞者を表彰するなど各方面に活動して居る

□体育獎勵會 本會は獎勵會本部及体育研究部の二部に分ち本部事業としては郡内小學校体育の獎勵指導、聯合大運動會、教育團旅行、教員テニス會獎勵、体操講習會に會員派遣、他地方体育狀況視察員派遣、体育研究部の統督等を行ひ体育研究部事業としては會員を定期及臨時に集合せしめ体育遊戯の理論及實地研究。講師を招聘して体操遊戯の講習會を開き、体操講習員及体育狀況視察員を派遣、運動會の運動種類方法等の調査研究、教員の身軀鍛鍊のため遠足登山テニス會等を舉行するなど大に体育獎勵上に研究を怠らず頗る有益なる團體である

□青年會 郡内の青年會總數が廿九、會員が七千九百八十二人あつて之を總括

して郡青年會なるものが組織されて居る、地方青年會の事業は夜學、風紀改善、講師の講演、青年の教化、農事改良、拓殖、講演會、共同作業、道路改修等にして貯蓄額が四千三百六十餘圓に上つて居る郡青年會は毎年度事業計畫を定めて總會を開催し講演模範青年者表彰及青年大運動會を行ひ視學員を派遣し他府縣他郡市等の優良青年會を調査せしめ町村巡回講演會を開き地方の改善青年の指導獎勵等に努めて居る

宗 教

仲多度郡に於ける宗教は無論佛教を第一と云はねばならぬ、それは其筈全國中に於て本郡程多數の高僧名智識を出した土地は恐らくあるまい、曰く弘法大師、法光大師、道興大師、智證大師、理源大師、之れ皆本郡の人であつて尙此外に眞然僧正、傳燈大師、宥範僧正、道雄僧正と數へ來れば古今の名僧は殆んど本郡よりの出身と云ふてもよい位である、故に往古より地方の開発は佛教が主力となつて社會的にも宗教的にも働いて居る。近時佛教の外に金光教、天理教、黒住教、基督教等も各地に宣教所や分教會を設けられてあるが何れも左程振ふて居らぬやうである、只琴

平町附近には金刀比羅宮によつて崇敬教會なるものが設けられてあるので之れが信徒が幾らかの勢力を占めて居る、要するに佛教を除く外の各派は目下尙布教時代とも云ふべく未だ社會的に活動する迄には至らぬ様である左に郡内の寺院及各教會數を示さう

寺 院

眞宗四六、眞言宗五一、天台宗三、淨土宗五、臨濟宗一、

法華宗一、

各教會所

黒住教一、天理教二、金光教三、基督教二、眞宗說教所五

産 業

本郡は南方阿讃山脈の起伏せる數ヶ村を除く外土地平坦氣候温和、土壤肥沃にて最も農業に適し耕地は殆んど二毛作にて田五千四百八十七町九反歩、畑九百六十町六反歩、宅地六百七十七町二反歩、山林九千三百七十五町四反歩、其他二百二町四反歩を有し郡民の大多數は農業に従事し商業漁業之れに次ぎ林業工業は稍振はざる傾

向を示して居る

農 業

郡にては明治四十二年以來勸業七年計畫なるものを定め之れが遂行に努め米麥作改良は勿論總ての勸業方面を改良督勵しつゝあるが其成績漸次良好に向ひつゝあり

□米作 米は農産物中の主要の産物であることは云ふまでもない事であるが殊に讃岐米と云へば他國米に比して頭角を現はして居る次第であるから郡當局者や農會等に於て極力之れに留意し從來の弊害を矯正し採種田の設置、粃種の塩水撰共同苗代等専ら指導改善に努め漸次善良米を産し好果を收めつゝあり其收穫に至りては年の豊凶により年々多少の増減あるを免れざるも最近四ヶ年間の作付反別並に收穫高を示せば

大正元年	五千三百九十六町三反	十二万二千二十八石
全 二年	五千三百九十七町	十四万九千六百五十三石
全 三年	五千三百六十六町二反	十五万五千七石
全 四年	五千三百九十一町七反	十三万五千五百六十九石 (風害)

にして僅かに三四ヶ年間に二万石以上の增收を見て居る、これは畢竟農事改良の行はれた結果であるが尙郡にては益々指導奨勵に努めて居る

□麥作 麥は農家の常食として之れが豊凶は忽ち農家經濟に多大の影響を來するを以て米と同じく採種田の設置、麥種の塩水撰、麥奴豫防等につき郡當局者及農會等は大に留意改善に努め逐年良好の成績を擧げて居る、乃ち七年計畫實行前五ヶ年の平均收穫は七万八千石餘なりしが最近五ヶ年間の平均産額は九万石餘に達して居る之れに依つて見るも如何に當局者が熱心に改良督勵に努めて居るかが知れる左に最近三ヶ年間の作付反別と收穫高を擧げて見やう

大正二年	五千五百六十九町	十一万六千九百六十九石
全 三年	五千六百四十三町六反	九万千二百二十六石
全 四年	五千五百十四町九反	十万八千七百七十五石

□食用及特用農産物 第十一師團の所在地と小區域内に稠密せる市街を有し食用農産物の需要は到底郡内のみにて供給し得ぬ程であるから郡當局者も大に之れが栽培改良の指導督勵に努め又農家も經濟上非常に利益あるを感得したので逐年栽培の増加を見るに至り毎年郡農會主催にて開かれつゝある蔬菜果樹品評會の成績も

頗る良好の結果を見つゝあるが尙將來一層向上發展して可成郡内に於ける需要品だ
けは供給を期せねばならぬであらう

品名	数量	價格
大豆	二、九三〇	一六、九〇〇
蚕豆	九、七二一	五、八七五
黍	七、九五	六、一八六
甘薯	三、九二、八〇〇	二五、五五〇
青苜蓿	六、四八〇	五、一五八
豌豆	三、三三〇	二、一六六
葱	九、二七五	四、四九六
蕪菁	二、七、四〇五	二、四〇五
蓮根	七、〇〇〇	二、四七
胡瓜	一、九、三七八	一、九六六
西瓜	六、九七	一、二七
茄	一、五、六六四	七、五七七
甘蔗	一、四八、六〇〇	七、九七六
高粱	五、三、三〇〇	二、三〇七
小豆	一、五七五	二、〇六四
粟	三、八二	二、二八八
蕎麥	二、六七	三、三六八
馬鈴薯	三、一、五五	三、三六
漬菜	三、〇六三	一、五四五
蘿蔔	五、七〇、五〇〇	一九、七三三
胡蘿蔔	七、一八五	五、八四
牛蒡	二、五、八八八	二、八五一
苜蓿	五、一、四〇〇	九、七四
南瓜	四、〇八六	二、八九
甜瓜	五、一、二〇	五、三八
實綿	五、五	五、四
水菜	三、六、八四	一、〇三五
越瓜	六、〇、〇〇	三、五

□果樹 郡内に於ける果樹の内柑橘類は七年計畫によつて各町村に割當反別を定め大に栽培の奨励に努め居れるが其成績長足の發達をなしつゝあり當局者は尙益々改良指導に意を注ぎ管理施肥、害虫驅除に日も怠らざる有様であるから前途大に見るべきものであらう

品名	数量	價格
温州ミカン	六、一七三	一、一七四
夏橙	三、〇、三三三	二、五三三
梅	一、四、〇一五	三、六七六
梨	一、三、九五	二、八五
苹果	一、二、〇〇〇	四、〇二
葡萄	七、一、一七	一、五九〇
栗	六、五	一、〇六
ワシントン ネーブルオレンジ	五、八、五五	一、二、四三
其他柑橘	七、五〇	一、〇〇〇
桃	四、八、二七	六、九一五
柿	一、七、四三	三、八三五
枇杷	二、一、五五五	二、八五〇
杏	三、〇、〇五	三、九
無花果	二、一、九三	五、〇三

工業

三〇

本郡の工業は前にも述べた如く割合に振ふて居ないが先づ織物、竹細工、吹、團扇骨、繩、麥稈眞田位が其重なるもので織物の内にもタオルを以て第一とし其生産額一ヶ年約七万圓に上つて居る其他各種の工作品を通じて五十三万三千餘圓であつて郡内総ての工業より生ずる産額は約六十万圓位のものである。

□麥稈眞田 郡内に於ける工業として最も有望であつて農家の副業とし頗る有益なる事業は麥稈眞田である、郡には之れが奨励指導の爲め専門の工業技手を置きて大に督勵に努め去る大正元年頃迄は著しく生産品を出し、一ヶ年産額二十一萬餘圓に上つて居たが歐州戦乱より來れる打撃によつて多大の影響を受け居りしも現時は又舊に復して製品等も亞米利加方面に向けるものを編成して居る、大正四年中に於ける生産數量は五十一萬七千三十六反で此價額六萬五千三百五十一圓餘位の物であつたが五年度に入つてからは非常に好成績を示して稍開戦前の景況に向ひつゝある尙該業は前途頗る望がある事業である。

□吹 本郡内にては農家の副業として塩肥料其他各種の吹を製造して居る大正四

年三月郡内吹同業組合なるものを組織し郡當局者は大に之れが奨励に努め現今にては一ヶ月約二十萬枚を製産して居る。今大正四年三月より全十二月迄十ヶ月間の統計を見るに數量百八十万千五百二十四枚此價七万二千六十餘圓を示して居て尙今後頗る有望の事業と目されて居る。

工場

□内田浴巾工場 琴平町内田六平氏の經營する工場で全町金澤町にある、主要製品はタオルで明治四十三年創立以來日進月歩繁盛を極めて居る、現今職工八十三名を使用して大正三年中には數量八万八千五百七十七打金額六万九千七百三十八圓九十錢の製品を出し尙今後益々發展の見込みがある。

□塩屋團扇合資會社 六郷村大字塩屋にあり、明治四十三年の創立に係り主要製品は團扇骨である、目下職工五百餘名を使用し一ヶ年一千二百萬本以上を製産して居る、社長は香川金八氏で全會社の大株主である。

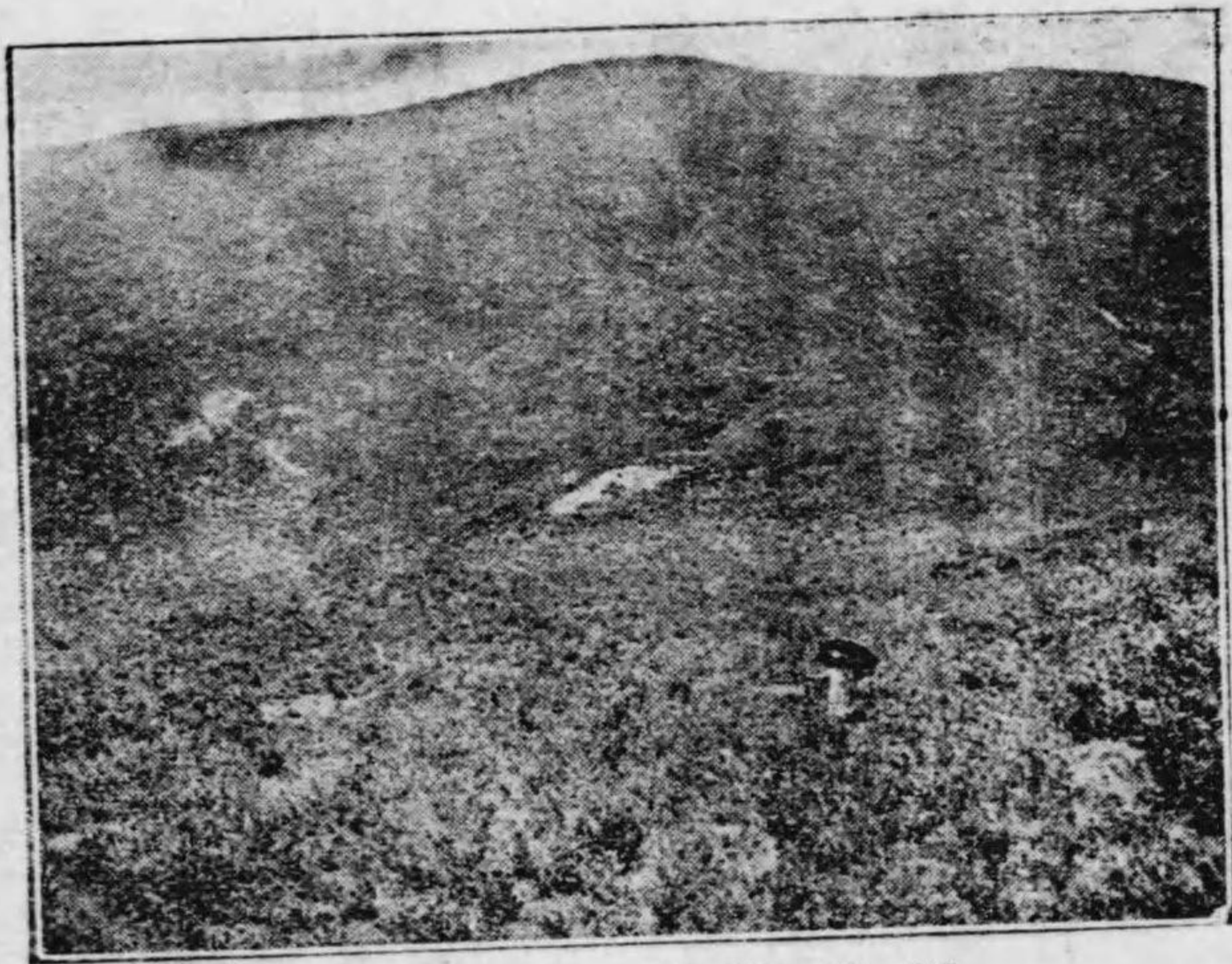
□善通寺製燧株式會社 善通寺町大字善通寺にあつて主要製品は燧寸であるが現今休業して居る。

三一

三三
□戸倉石鹼工場 善通寺町偕行社前にあり、明治三十年の設立にして戸倉兼太郎氏個人の經營に係る、今日迄毎年約一万圓の製造をなしつゝあり今後は益々發展に努め坂神地方へも輸出せんと計畫中である

林業

□造林獎勵 本郡の林野は總面積九千二百九町四反一畝歩にして、内公有林三千六百七町六反三畝五歩であるが民有林は最も荒涼不毛の狀を呈し、其多くは不生産的放任の狀態にあるもの少なからざるより郡にては曩に七年計畫を立て未立木地の造林を獎勵し之れが誘掖指導の任に當らしむる爲め、林業技手を派遣し實地につき其適否を指示し且つ造林方法等を町嚮懇切に報導せしめ、一面には講習講話をなし以て一般愛林思想を喚起し、斯業に關する智識を啓發し居れるが其結果各町村其他團體個人等にして着々造林するに至り、現在公有林五百六十二町五反歩、社寺私有林百九十三町五反歩、合計七百五十六町歩の造林實行を見るに及び尙其他は天然更新法により、以前不毛荒涼の地も秩序的改善を圖りつゝありて前途頗る有望である



郡 摸 範 林 (大森山)

□部落有林野統一 本郡内に於ける部落有林野の面積は二千五百四町四反二畝二歩にして、其管理經營は多年の因襲に依つて宜しきを得ず、荒廢に瀕せんとするもの尠なからず、是れを町村に統一歸屬し利用開發を計るは、地方林政の急務なるも部落有林野は複雑なる所有關係の存するものあり、古來入會慣行の存するありて容易に整理統一を見るに至らざりしも、郡にては極力勸奨誘掖に努め林業技手をして、本務の傍ら指導獎勵に當らしめたる結果善通寺町を除く各町村は全部整理統一を見るに至り、山林二千三百七十九町八反六畝二十九歩の外田畑宅地原野雜地建物現金等と共に全部町村

有に歸一するに至れり

□摸範林 本郡にては明治四十三年通常郡會の協賛を経て、普通寺町外三ヶ村山林組合有地(土地反別百三十六町四反八畝十四歩 實測反別百十五町九反七畝二十二歩)に地上權を設定し收益の十分の三は土地所有者に、十分の七は郡の所得となす契約にて郡内大麻山に模範造林事業を行ひ、扁柏一割二分、松六割八分、櫟二割を植栽し年々保護を周到にして居れるが目下成績佳良にして伐期は櫟十年扁柏松は六十年の見込である。

漁業

瀬戸内海に瀕して有名なる鹽飽七島は郡の前面を擁し潮流餌虫の關係上魚族の廻遊し來るもの夥だしく、春夏秋冬何れの時と雖も魚介の利豊饒にして、島嶼の各村は勿論多度津白方豊原六郷の沿岸地は、漁業に従事するもの多く本島村外四ヶ村漁業組合の外各島部々々にて漁業組合を設け、漁船千百十隻就業者二千八百六十五人あり、尙春季の漁業期には岡山愛媛山口の各縣下より出漁者多數あり、内海中に於ける最も長期間の漁場と目され居れるが、今大正三年度中の漁獲物統計を示して見れば

種類	數量	價格
鯛	一六、九六六	四、四七四
鱈	二九、六六四	二七、三〇〇
鱈	八、七五五	八、九八〇
黒鯛	一三、二〇〇	六、五〇〇
鰺	五〇〇	五〇〇
鰻	三、七六六	四、〇七
其他	一三、六九九	一四六、六五
介類	七、七五五	三、〇七
鰹	二、四八九	七、三七一
鱈	一四、五〇〇	一四、五〇〇
鯨	一、七三〇	一、六四八
鯨	二〇〇	六〇
鯨	一、五三三	八八九
鯨	一、三三八	三三六
水産動物	三、三三八	一六、九六六

蠶業

本郡蠶業界の全盛期は明治二十五年頃より全三十二三年頃迄であつた、其頃は何れの町村にも競ふて養蠶が行はれて居て郡にも奨励指導に努め各種の組合を組織するあれば製絲會社の設立を見る迄に至つたが原料需給の關係絲價の變動甚しかりし結果收支償はず遂に破産の悲運に際會したるが、之れが爲め一般に蠶絲業は投機的事業の如く思意し、從來の經營者も漸次桑園を廢し、蠶具は鶏舎の墻になす状態に

至り、諷評に『米のなる田に桑植へて末は食ふきかくわぬきか』又『貧乏急げば養蠶せ』など言ひ觸らして、一時桑園反別六十一町七反歩、産繭二百十五石の多數ありしに拘らず其後年々歳々退歩減少し、明治四十年に至りては産繭僅かに四十八石に減じ、尙年を逐ふて益々不振の状態なるより、郡にては大に之れが振興に腐心し一時廢止し居りし常設技術員を置き、本郡に蠶業の適不適を調査せしに氣候風土より見るも、將又耕地反別對畑反別又畑の使用上よりも、栽桑の餘地決して少しとせず、殊に人口對耕地反別は比較的狭少なるを以て、農家は副業に經濟の助長を圖らざるべからず、故に勸業七年計畫の事業に加へ極力指導契勵に努め、今や稍秩序的進歩發達に向ひつゝあり、明治四十四年の桑園反別八町三反に比し、大正四年に至つては十五町八反に向上し、尙大正十年迄には百五十三町歩に増加せんと計畫し、繭の産額大正四年は六十三石なるを十年迄には千九百八十九石の增收を見んと施設契勵に努めて居る

畜 産

仲多度郡に於ける畜産と云へば、先づ畜牛の事を云ふより外になく、産馬の如きは

殆んど問題にならない有様で、大正四年の調べを見るに、馬匹は僅かに八十八頭に過ぎず、畜牛の飼養頭数は四千五百餘頭を計上して居る、而して是等畜牛の重なるものは在來の和種を主とし、ホルスタイン系の雜種や朝鮮牛及他の退却雜種等で、種類も雜駁のもの多く、改良契勵を行ふべき餘地を大に有して居て、周圍の立場より云へば本郡の状態としては、殆んど育成地の觀かあるので生産の用に供するもの少なく、畜牛改良上幾多の方法施設を講究するの必要あり、明治四十四年産牛組合を設立し、一意之れが改良契勵に努め種牡牛の飼養種付、優良牛の保存殘乳の利用、肥育牛の契勵、野草改良、飼料の利用、等幾多の契勵方法を講じつゝあるが、近時稍其成績を見んとするに至り、六郷村殘乳組合の如き特に其成績良好なるあり、尙是等組合の設立を見んとする形勢ありて、農耕牛としての餘力利用の途開けんとして從て畜牛改良上資する事多きに向はんとする現象を示して居る

郡 農 會

仲多度郡農會の事業としては農事講習講話、米麥種子の塩水撰及麥奴豫防指導、共同苗代設置契勵、堆肥舎の建設督勵、町村農會米麥模範作及採種田の指導監視、米

麥果樹等病虫害驅除督勵、蔬菜栽培の指導及種子無償配付、厩糞整理講習、堆肥及堆肥舍蔬菜果樹品評會の開催、肥料桑苗果樹苗間作大豆紫雲英及蔬菜種子の共同購買斡旋等を年々繼續し、之れが事業遂行の方策として郡役所係員、縣駐在、郡農會産牛組合、町村農會技術員を網羅して組織せる、郡技術員會を毎月一回定日に開設し、當期獎勵督勵事項を協定し統一的の歩調を以て施行しつゝあるが、漸次其効果を現はし改良の實舉がりつゝあり

□摸範農場 本場は元郡立農事試驗場として、明治三十二年の創立に係り其當時の事業は主として桑園、藍、棉、養蠶等の外苗木の養成配付を行ひ居りしが、漸次藍棉作の不況に伴ひ之れを廢止し、米麥蔬菜作の試験に變更したるに、其成績の舉りつゝありしも同事業は、郡直營事業となすより寧ろ郡農會事業として、適切なりとの説起りて郡議の結果同四十年四月郡より補助金を受くると共に、建物器械の全部を無償讓與せられ繼續經營するに至り、爾後作地の増減事業の改廢ありたるも現今に於ては、専ら農家經濟を基礎とせる時期に適應したる、各種の事業を經營し居れり其概要は左の如し

- 一 米麥普通摸範作及米麥採種田の經營

- 二 米麥各種栽培及肥料試験の施設
 - 三 米麥種子の配附
 - 四 養蠶養蜂の飼養管理
 - 五 蔬菜の栽培及種苗の配附
- 前項の事業經營に供用せる用地及面積は

一 事務所敷地及道路敷地	七畝二十七歩
一 摸範作採種田及試験地	四反七畝十八歩
一 採種田	五反歩
一 蔬菜園	九畝歩
一 果樹園	四畝歩
一 草花園	二畝歩
計	一町二反十五歩

□干草調辨と肥料委託販賣 本郡農會は大正二年度より第十一師團と契約を締結して、軍隊馬糧用の干草調辨納入と肥料委託販賣を行ひ、之れを特別會計として扱ふて居るが其成績頗る良好を示して、師團側に於ても又農會側に於ても、將來有望なる事業として所謂一舉兩得と目されて居る、今大正二三兩年間の取扱を見るに

千草調辨
 大正二年 一万五千五百八十五圓九十四錢
 大正三年 二万五百六十五圓九十二錢
 肥料委託販賣
 一万八千六百一圓三十六錢五厘
 一万八千五百十三圓九錢

會社銀行

仲多度郡内に於ける會社銀行は左の如くであるが、尙近く善通寺町に百万圓の資本金にて紡績株式會社を企圖しつゝありて、今後益々事業の勃興する傾向である

△四國水力電氣株式會社 (多度津町)

設立 明治三十八年七月
 營業目的 電燈及電力供給
 資本金 二百五十四萬圓

△明治商船合資會社 (多度津町)

設立 明治廿九年四月
 營業目的 運送業
 資本金 一萬圓

△株式會社多度津銀行 (多度津町)

設立 明治二十四年八月
 營業目的 銀行業
 資本金 二十萬圓

△株式會社讚岐銀行 (多度津町)

設立 明治二十三年十一月
 營業目的 普通銀行業
 資本金 二萬圓

△讚岐藥品株式會社 (多度津町)

設立 明治四十四年二月
 營業目的 各種藥品賣買染料及醫化學用器械製造販賣
 資本金 五萬圓

△備讚石油合資會社支店 (多度津町) 本店岡山縣玉島町

設立 明治四十二年八月
 營業目的 石油委託販賣
 資本金 三萬四千圓

△丸六合資會社 (多度津町)

設立 明治三十七年七月

營業目的 肥料販賣
資本金 四千圓

△合名會社松尾商會 (多度津町)

設立 明治四十年二月
營業目的 醬油製造販賣
資本金 一万五千圓

△合名會社信久組支店 (多度津町) 本店神戸市二ノ宮町

設立 明治三十二年七月
營業目的 麥稈、經木、苧麻、真田紐及原料賣買並ニ製造
資本金 三万九千八百圓

△株式會社琴平銀行多度津支店 (多度津町) 本店琴平町

設立 明治三十三年一月
營業目的 銀行業
資本金 一万圓

△榎井産業株式會社 (榎井村)

設立 明治四十一年十月
營業目的 肥料販賣

△向井合資會社 (與北村)

資本金 一万七千五百圓
設立 明治三十三年十二月
營業目的 物品販賣及金錢貸付
資本金 一万圓

△合資會社香川商會 (善通寺町)

設立 明治三十一年八月
營業目的 陸軍御用達
資本金 一万圓

△高松百十四銀行善通寺支店 (善通寺町) 本店高松市

設立 大正二年七月
營業目的 銀行業
資本金 本店ニ共通

△株式會社多度津銀行善通寺出張所 (善通寺町) 本店多度津町

設立 明治三十四年八月
營業目的 銀行業
資本金 本店ニ共通

△善通寺藝妓株式會社 (善通寺町)

設立 明治四十三年三月
營業目的 周旋營業
資本金 一萬圓

△善通寺製燈株式會社 (善通寺町)

設立 明治四十二年三月
營業目的 燐寸製造
資本金 一萬五千圓

△株式會社明正銀行 (善通寺町)

設立 大正二年一月
營業目的 銀行業
資本金 五十萬圓

△株式會社關西貯蓄銀行善通寺支店 (善通寺町) 本店德島市

設立 明治三十三年二月
營業目的 貯蓄銀行業
資本金 本店五十萬圓之共通

△株式會社琴平銀行 (琴平町)

△讚岐產業合資會社 (琴平町)

設立 明治四十二年二月
營業目的 肥料賣買、物品販賣、委託販買、官證元賣捌業
資本金 壹萬圓

△合資會社松尾商會琴平支店 (琴平町) 本店多度津町

設立 明治四十年十月
營業目的 醬油販賣
資本金 本店之共通

△株式會社多度津銀行琴平支店 (琴平町) 本店多度津町

設立 明治二十七年二月
營業目的 銀行業
資本金 二千圓

△昌榮貯蓄銀行總代理店 (善通寺町)

設立 大正四年三月

營業目的 貯蓄銀行業
資本金 本社五十万圓共通

△帝國實業貯蓄銀行代理店

(善通寺町)

設立 大正四年十二月

營業目的 貯蓄銀行業

資本金 本社十六万圓(全額拂込)共通

△ジャパンカラーズ株式會社

(琴平町)

設立 大正五年四月

營業目的 染料製造

資本金 十萬圓

人物

仲多度郡は古來多數の偉人を出せり、其人物中より特異の色彩を放てる二三の略歴を擧げて見れば

勤王

□僧月照及信海

月照は忍向又忍海、忍鎧と稱す文化十年多度郡(仲多度郡)

吉原村に生る、信海は其弟なり月照幼名を久丸と呼ぶ、弟信海と共に捨身し其季父なる多度郡碑殿村(吉原村)遍照院牛額寺住僧藏海の法弟と爲る、藏海京都の清水寺に轉住するに及び、月照信海と共に高野山に登りけるが、月照は藏海の後住となれり時に月照年二十餘なり、當時徳川幕府の措置皇室を輕侮する事甚しとし、月照慷慨禁する能はず寺を信海に譲り、諸國を跋渉し時勢を洞察し、天下の志士梅田源次郎頼三樹三郎等、日夕來往互に時事を痛論せり、是を以て幕吏忌む事日一日より甚しく勤王の諸有志を捕縛し關東に送致す隨て禍累將に月照に及はんとするも潛伏する所なく、乃ち近衛忠熙より松平修理大夫齊彬に致す所の書翰を懐にし、西郷吉之助有村俊齊僕重助と共に難を薩摩に避け居りしも、幕吏追捕太た急なるを以て西郷吉之助と相謀り日向に赴くと稱し、福岡藩平野次郎と共に舟を發し、宴を舟中に開き爛醉朗吟「答ふべき限は知らし不知火のつくしにつくす人の情に」と云ふ歌を懷中に納め、西郷と相抱き海に投せしが西郷は死に至らざりしも、月照は終に蘇生せざりき、實に安政五年十一月十六日の夜なり後明治二十四年十二月十七日月照に正四位を贈らる

信海夙に皇朝の式微佛法の衰運を憂へ粉骨碎身寧日なかりしが幕吏の嫌疑に觸れ免

かるべからざるを知り和歌を咏して曰く「真心を盡さん時と思ふには憂に逢ふ身ぞ嬉しかりける」安政六年正月五日京都西町奉行所に幽囚せられ、後江戸に檻造せられ同年三月十八日卒死す、明治二十四年十二月十七日從四位を贈らる

□日柳燕石 燕石名は政章字は士喚燕石は其號なり、又別に柳東と號す、那珂郡(仲多度郡)榎井村に生る、故草薙を氏とす父に至り日柳と改む、小字は長次郎後赤松劍吾と改稱す、維新の後京師に入り日柳耕吉と改む、初叔父石崎某に従ひ後三井雪航に就き、經史詩文を學ぶ人と爲り氣節を貴び然諾を重んず、人の緩急に赴く己の死生を顧みず常に壯夫を養ひ自ら棟梁となり樽蒲を事とす、蓋其跡を晦すなり嘗て尊攘の志士桂小五郎、谷潜藏、吉田寅次郎、日下部伊三次、伊藤俊輔、井上聞多、西郷吉之助、小松帶刀、大久保市藏等と東西奔走沈謀潜略する所あり、其後谷潜藏桂小五郎品川彌次郎等其藩の容れざる所となり來て、燕石に倚る是を以て幕府の嫌疑を受け高松藩の獄に下り、幽囚四年なるも敢て其操を變せず、獄中に在て常に時事を痛論す皇運中興に際し囹圄を脱する事を得たり、明治元年五月京師に入るや朝廷優詔を以て天杯を賜ふ乃ち、徵士木戸孝允と共に命を受け鎮西に赴く、當時北越の賊軍勢最猖獗なれば、大將軍仁和王勅を奉し之を討つ乃ち、其記室と爲り同

年六月京師を發し、越後國相崎驛に滯陣す同年八月病て陣中に没す、享年五十二同二十四年九月靖國神社に合祀せられ、同三十六年從四位を贈らる

□美馬援造 名は諧字は和南櫻水又君田土佛と號す、仲多度郡琴平の人也、文化十年阿波國美馬郡重清村に生る、後讃岐の琴平に來り住す家世々農を業とす、援造垂簪の時より桑門に入る人と爲り、坦懐にして城府を設けず諦交すれば終初を全ふす、安政元年瓢然四方に歴遊し奇傑の士を求めて之に交る、高杉晋作、坂本龍馬と最も親しみ善し、安政四年夷艦浦賀港に泊す、海内騷然たり援造義を首唱し各所に奔走し以て、尊攘の義を鼓舞す讃岐琴平は諸國人士の往來頻繁なるが故に來寫せり、當時宇内の形勢頗る切迫す、援造四方慷慨の士と臂を把り交を定むる者日一日より多し、偶々高杉晋作、桂小五郎、長門より來る、援造日柳燕石等と相往來し、互に肝膽を吐露し、皇運を振興せんことを、幾もなく晋作小五郎等歸國す、慶應元年物論頗る囂々援造憤激に堪へず益々慷慨の士と交り幕府の嫌疑に觸れ縛に遭ふ、爾後縲紲四年氣少しも挫けず、憂國の文を作り、時弊を痛論し人をして感化せしむるに足れりと、世局一變し援造漸く出獄す、慨然として曰く「余元微賤にして而して聖恩を蒙り青天白日の身となる、因て殘賊を滅し功績を立てて以て其恩に報せん」と

乃ち將に劍を抜き上京せんとす、不幸疾病に罹り遂に自ら爲すべからざるを知り、帷を琴陵に下し生徒に授け居りしが明治七年七月中瘡痼疾再發して全月廿七日を以て没す、享年六十二、明治三十六年十一月特旨を以て正五位を贈らる。

□奈良松莊廣業

奈良は氏、廣業は名にして、松莊は其號なり、天明六年仲多度郡榎井村に生る、幼にして機警鋭敏、頭角を見はせり、年十にして父母の命に依り自村の興泉寺に入り剃髮して僧となり悦はず嘆して曰く、國學皇國の道此に在り、乃ち石潭翁に刻苦螢燈雪燭して國書を研究す、石潭翁深く望を囑す、既にして興泉寺を辞し、業を牧招郷翁の門に受く未だ數月ならずして其舎長となる、研精すること數年、業益々進む、時に備後國の菅茶山雷名あり道德詩文共に關西の泰斗たり、廣業其門に入る、頼山陽其の熟長たり、茶山最も之を寵遇す、業大に進む後郷里に還り斷然釋氏を脱して帷を榎井巷に下し生徒に授く、道義節操卓然として樹立せり、學者多く之を愛重す、好んで宇内を周遊し足跡の逮ふ所皆悉く詳記して遺漏あることなし、文化三年露西亞の軍艦北海に寇せしより、幕府檄を東陲の諸藩に傳へ嚴に備を爲し天下騷然たり、廣業之を聞き慨然として曰く、國內の戰爭は彼れ勝つも此れ負くるも要は皆一家の不幸にして深く憂ふるに足らざるべし、獨り外國

醜虜の入寇は神州の辱極めて大なりと爾來勤王憂國の念自ら禁する能はず。後廣業竊に佐久間象山吉田松陰等と交る廣業頗る節儉を守り、黃金數百圓を貯へ將に以て國家非常の用に充てんとす。常に尊王攘夷の大義を唱へ慷慨激烈の士と交り専ら心を尊攘に留め日夜計劃する所ありたりと。文久二年正月二十八日歿す、享年七十有七なり。

□長谷川佐太郎 佐太郎は仲多度郡榎井村の人にして天性義氣に富み夙に日柳燕石等と尊王の大義を唱へ廣く天下の志士と交り王政復古の大業を助けしを以て正七位に叙せられ、又公衆の利益を興し成績著明なるを嘉し藍綬褒章を賜ひ、副賜するに金五十圓を以てせらる。

高僧

□弘法大師 大師御名は空海、多度郡屏風浦(仲多度郡善通寺町)の人也。父を佐伯田公と云ふ。母の胎内にある十二月にして寶龜五年六月十五日生る。歳甫て十三舅父阿刀大足に従ひ書を読み文を學ぶ。歳十五頗る頭角を見す。十八にして大學に入る。一日沙門勤操を見て虚空藏求聞持法を修むるに甚だ勤む。二十二にして薨

髮す。延暦十四年東大寺に入り戒を受く、同二十三年入唐し青龍寺慧果に従ひ秘密教を受け、研志一年蘊奥を究む幾も無くして其師遷化す。乃ち碑文を作る。人皆感ぜざるものなしと云ふ。大同元年歸朝す。工藝美術に長じ殖産興業の道を拓き、「いろは四十七文字」を作るなど諸宗の碩徳能く及ぶものなし。嵯峨天皇大に信せらる。弘仁元年禁内に眞言院を作り歳時法を修し怠らず歳四十三紀伊國金剛峯寺を開く。十二年州人奏請により別當となり満濃池を築く功成て新錢二萬を賞賜せらる。同十四年勅して東寺を賜ふ。天長元年少僧都に任じ同四年大僧都に任ず。承和二年三月二十一日高野山に遷化す、享年六十二。延喜二十一年勅して弘法大師と諡を賜ふ。大師博學にして才藻あり。當時の文士敢て抗する者なし。書法も亦其妙を得て張芝懷素と名齊ふし草聖と稱せらる。

□眞雅僧正(法光大師) 諱は眞雅多度郡の人俗姓は佐伯贈大僧正空海の弟なり大同四年甫て九歳、京師に入り兄に従ふて密教を受く。十九にして具足戒を受け、徴されて禁内に侍し三十七尊眞言を誦す。音響亮然貫球の如し。聽者感服せざるなし。嘉祥元年權律師と爲り、尋て律師となる。同二年藤原良房の請に依り染殿皇后の爲めに尊勝法を修し皇子降誕し玉ふ。仁壽三年少僧都となり、齊衡三年大僧都に

轉ず。眞觀六年僧正と爲る。是より先き僧綱凡僧の位階を同ふす。眞雅奏請して法印大和尚を以て僧正階とし法眼和尚を授け輦して禁門に出入することを聽す。元慶三年正月還化す。享年七十九、文政十一年六月二日勅して法光大師の諡號を賜ふ。

□智証大師 大師名は圓珍那珂郡木徳村(仲多度郡龍川村)の人なり。父を和氣宅成と云ふ。母は佐伯氏空海の甥なり。家世富閭里に重んぜらる。眼に重瞳あり、頭角隆起す幼にして雜染し叡出に登り眞法師に従ひ菩薩戒を受け仁壽三年八月九日入唐し兩部印及灌頂法を受く。留る事六年眞觀元年歸朝す。天台にして密教を兼ぬるは之れを始めとす。同十年大僧都に任じ延暦寺の座主となり再び三井寺を造る寛平三年十月二十五日寂す。勅して智証大師と諡す。

□理源大師(聖寶僧正) 諱聖寶壙飽島の人なり。年十六眞雅に従ひ得度し三論を願曉及圓宗に學び唯識を平仁に華嚴を玄榮を受く。眞然に調し密教を學び、後源仁に従ひ秘を極む。平生苦行を好み名山靈區跋涉せざるなし。金峰の嶮役小角以降攀躋せしものなし。僧正之を開き、修驗道を中興す。爾後行者相繼で攀るもの絶へず。貞觀十六年山城の國醍醐山を開き顯密二教を講す。同十七年南都に東南院を建て三論宗を弘め丈六の佛像十二餘軀を造り以て悲濟を勸す。仁和二年勅して傳法阿

開梨位を賜ふ。寛平二年貞觀寺の座主と爲り延喜二年僧正に任ず。同九年醍醐山を以て勅願所とす。是年六月寂す。享年七十八、應徳元年四月理源大師の諡號を賜ふ
□道興大師(實慧僧正) 諱は實慧姓は佐伯多度郡(仲多度郡)の人なり。初南都大安寺泰基に従ひ、性相唯識を學び大同の初め空海に従ひ密教を受く。天長四年河内に觀心寺を建つ。同九年空海將に高野山に退隱せんとするに當り、付するに東寺を以てす。承和元年勅して高雄山に秘法を修せしむ。弘仁淳和兩上皇深く崇尙せられ本院の別當に補し僧正に任せらる。同三年勅して東寺の長者に補し、一宗を總理せしむ。東寺の長者是を始とす。同十年奏して東寺灌頂院に於て春秋結縁灌頂を修す。晚年世務の紛雜を厭ひ河内の檜尾に隱し。同十四年十一月寂す。享年六十二、空海高足の一にして後世其徳を慕へり。安永三年八月十二日勅して道興大師の諡號を賜ふ。

□其他の高僧 傳燈大法師、道雄僧都、眞然僧正、善通寺町(宥範僧正(象郷村)通玄(多度津)梅腑等數へ來れば枚舉に暇あらざれども畧す

義民

帆山金右衛門、碑殿甚左衛門、三井金右衛門

三名は七義民の内なり延享二年より寛延二年に至る迄旱害四年に涉りたる後洪雨一時に至り人畜死傷多く飢民家を失ふ者多し丸龜藩主の京極佐渡守高矩公英明の譽高かりしも奸吏下にありて其明を覆ひ歎願哀訴も其効なく賦稅年々に重く時の大小庄家も奸吏と結託して良民を虐く寛延三年正月十八日一片の飛檄領内に散布せられ三野豊田那珂多度四郡の民奮起して竹槍蓆旗を翻すに至る之より先金右衛門等三名は三野郡の大西權兵衛を魁人とし彌市郎、嘉兵衛、平治郎と共に竊かに謀り身を捨て、民が塗炭の苦を救はんと決心し十三ヶ條の願文を携へ強訴す奉行、大目附等大に其情を察し十ヶ條を即時に許可し三ヶ條は追々詮議する事となる百姓始めて其堵に安せり義民は其目的を達したれ共法を乱すの故を以て捕へられ一族悉く死罪に處せらる權兵衛の居村笠岡村の有志相計り神に祭り社を建て七義士神社と云ふ此事の世に知られざりしは藩を恐れて口を緘したるが爲めなりと云ふ

名賢學士

□阿刀大足 大足は那珂郡(仲多度郡)の人なり博學秀才撰はれて伊豫親王の文學となり二千石采を綾郡(綾歌郡)加茂に食む葛木一言主の祠を其家の傍に建て以て

鎮守とす加茂庄大明神是なり

□佐伯直豊雄 直豊雄は多度郡(仲多度郡)の人なり幼より大學に入り臨池の技を習熟し書博士に任ず貞觀三年奏請して曰く「吾祖大伴連公日本武尊に隨ひ東國を平定し讃岐國多度郡を賜ひ允恭天皇の時始めて國造に任ず其後年を経て孝徳天皇の時國造の號を廢せらるゝや同性正雄等に性宿彌を賜ひ京兆に貫す吾田公の門未だ恩典に預ることを得ず幸にして之を賜はんことを」時に正三位中納言兼民部卿、大伴宿彌善男家記を檢し父子九人に性宿彌を賜ひ左京職に隸す

□秋山伊豆 伊豆諱は惟恭字は中禮巖山と號す文化四年仲多度郡象郷村に生る櫛梨神社の祠官たり幼より和漢の學を修む曾て頼山陽の門にあり日本外史稿本を得て之を手寫す後家に歸り徒に授く丸龜藩主京極高朗修史の志あり之を伊豆に囑す伊豆拮据多年史料を蒐集し終に西讃府志六十卷を編輯す大手筆と謂ふべし其他著す所讃岐神社考讃岐小史帝統蒙求續新論等あり文久三年四月病んで歿す享年五十七

□河田迪齋 迪齋諱は興通稱八之助後迪齋と號す龍川村大字金藏寺の人なり年甫めて十五伊豫國近藤篤山に従ひ漢學を修む年十八にして江戸昌平疊に入る後佐藤一齋の養子となるも本姓を改めす天保十二年都講に任せざる安政年間米艦來る幕府

伊豆の下田に往接せしめし時迪齋文書の記事を掌譯す安政二年將軍に謁す尋て昌平費儒員に拜す同六年正月病歿す年五十四

□黒木茂矩 黒木は其氏諱は茂矩初め倉太郎と稱し天保三年吉野村に生る家世々郷社大宮の祠官たり幼にして和學の志し業を象郷村の秋山巖山に受く晨出夜歸嚴寒酷暑と雖も一日も弛廢せず茂矩本居宣長を尊信すること深く神州の大道を發揮せん事を畢生の事業とし又神典國史を説くには本居宣長の説に據れり又歌學を奈良松莊に學ぶ後盛に作歌せられたり死後に其れを集めて穆舍集と云ふ年三十八にして高松藩藩學講道館の教官に任せらる皇學寮編修に補せらる遂に高松に移る茂矩學和漢を兼ぬる故を以て諸寮の推重する所となる明治維新の初藩命を奉じ神道宣教師となり東京にありて太政官に登る曾て御筵進講を陪聽す人以此榮となす明治四年廢藩置縣となり茂矩亦罷めて歸る後國幣中社田村神社の禰宜に任せられ又神道教導職となり州内を巡教して尊皇敬神の大義を闡明にす、聽く者感動し教を奉ずる者益々多く遂に推されて高松神道事務分局長となる、明治三十八年國幣中社琴平神社の禰宜に任せられ居ること四年にして罷め吉野に熟舎を開きて生徒に教授す是より讚の東西及豫備二州より風を聞きて從ひ學ぶ者前後實に千百を以て數ふ、茂矩諱々として教

へて倦まず各其材に因りて篤し、此を以て樂とす、明治三十八年乙巳九月二十六日
七十四才を以て逝く

五八

其 他

- 名賢 佐伯正雄、全真繼、全直長、全鈴伎麿、全田公、(善通寺町) 刑部造眞鯨
秦子上成、全彌成、因支首秋主、
- 學士 良野芝之、(吉野村) 森長見、(多度津町) 小國中山、(高篠村) 日柳三舟、
三野無逸、(榎井村) 林良齊、(多度津町) 上里濟、(吉野村) 吉田正達、(龍川村) 大久
保彦三郎、(善通寺町) 乾松翁、全中庸、(筆岡村)
- 孝子 松風村雨、(鹽飽島) 村平、(象郷村) 藤吉、(高篠村) 善左衛門、權藏、利
兵衛、菊松、源左衛門、覺右衛門、傳治、由宇女、(六郷村) 莊松、(十郷村) 俊女、
(筆岡村) 久太郎、彦兵衛、可也女、嘉右工門、銀松、伊勢女、金太郎、智恵女、
甚五郎、(善通寺町) 文治、(南村) 片山竹造、(七ヶ村)
- 事業家 高畑權兵衛、(與北村) 篠原市造、(高篠村)
- 武勇 飾部力良、
- 貞婦 弟橋姫、

- 友愛 勘七利左衛門、(四條村)
 - 書家 僧南洋、(龍川村)
 - 畫家 顯昌、(善通寺町) 小倉東溪 草薙、(多度津町) 大西雪溪、(郡家村)
 - 僧金陵 合葉文山、全快堂、松原竹里、(琴平町)
 - 仇討 高島八郎、(與北村)
- 以上の如く挙げ来れば尙際限なきを以て茲に其大略の名のみを現はして置くのみに
止めて置く

今 人

現時仲多度郡内出身の知名の人士を擧ぐれば
鉄道院副總裁古川坂次郎、(廣島村) 千葉縣知事
佐柳藤太、(豊原村) 群馬縣知事三宅源之助、(廣
島村) 三井物産會社顧問石川八十井、(多度津町)
山口縣警察部長松原權四郎、(豊原村) の諸氏で
尙此外にも軍人官吏實業家として成功者を數
へ来れば澤山あるか紙面に限りあるを以て之



孝子大西佐次郎受拜者

五九

れを畧す

名跡

仲多度郡内に於ける名勝古刹を擧ぐれば到底本誌全頁を以てするも紹介し盡すを得ず故に只單に其大体なる名稱のみを列記して見やう



金刀比羅宮

象頭山の中腹にあり祭神大物主神相殿崇徳天皇とす、正殿鎮座は太古に屬し年代不明なり相殿は永萬元年の勅請なりと謂ふ一條天皇及正親町天皇の勅により修築せしことあり後兵燹に焼失す長曾我部元親再建し後高松藩主松平頼重修繕す明治十一年今の社殿に改築す是より先き桃園天皇の御宇日本一社繪旨を賜ふ
金毘羅大権現と稱せしを明治維新後金刀比羅宮

國幣中社金刀比羅宮(琴平町)



金刀比羅宮
琴平山、石淵、清塚、櫻の馬場、鞘橋、青葉
か岡、北神苑(高燈籠)小瀧

と改む國寶及古物多く參拜者年々百万を下らす奥の院(嚴魂神社)は北十八丁の處にあり

附近の名跡

屏風浦別格本山善通寺

四國靈場第七十五番の札所

善通寺町大字善通寺にあり大同二年の創立にかゝり東寺高野と合せて三跡の一なり五岳山誕生院と號す五岳山の名は全寺背後に香色山、筆山、中山、我拜師山、火上山を總稱し屏風浦とは此五山の屏風の如く立並び居れるを以て其稱あり弘法大師の父善通の宅趾にして大師誕生の地たるを以て誕生院と名く大師歸朝後父祖の追善且つ布教の爲創立し父の諱を採りて寺號とせり堂宇宏壯楠の大古木あり古寫經古文書等頗る多し大師傳來金銅錫杖外佛畫佛像の國寶あり



善通寺五重塔

附近の名跡
 久之松、玉の井、仙遊
 原、西行庵、遊塚（一名
 犬塚）佐伯鈴伎磨館趾、
 足利尊氏利生塔 法然
 上人逆修塔 三帝の御
 陵

萬象園

（中津公園）

六郷村字中津にあり元丸龜藩主京極氏の別墅にして北は海に臨み塩飽島其前に列り
 買帆、漁舟其間を往來し園内松樹多く樹翠にして砂白く泉石丘陵天工に異ならず殊

に夏季海水浴場として頗る適す此地古昔は中の水門と稱し本郡の要港たりしと

白方海岸

多度津港の西十數町にして白方村に達す村の北部は瀬戸内海に瀕し白砂青松相連り
 風景に富み最も海水浴場に適す附近に弘法大師の舊跡海岸寺と云ふ古刹あり一説に
 此附近を屏風浦と云ひ種々なる古跡残り

金藏寺

龍川村大字金藏寺にあり齊衡三年智証大師父祖菩提の爲め建立し道善寺と稱せしが
 後今の寺號に改む中古以降衰頽せしを慶安年中高松藩主松平頼重修理を加へ寺領三
 十石を寄附せり國寶として僧圓珍の畫像儼存し乃木希典第十一師團に長たる時此寺
 に寓居せり

満濃池

満濃池は本郡神野村七箇村吉野村の三ヶ村に跨る讃岐第一の大池にして周圍三里水
 面九十五町六畝餘歩に涉り一市十六町村二千二百三十一町餘歩に灌漑す、弘仁年中

六四
僧空海の創築にかゝり後堤防破壊したるを寛永年間に至り西島八兵衛營築して舊に復し明治初年松崎澁右衛門長谷川佐太郎等岩石を鑿ち樋管を通して永く破壊の厄を免るゝを得るに至りたるが更に大正三年中約二万圓の工費を以て在來の木製搖を煉化石材の排水塔に改築するに至り實に他に比を見ざる溜池となれり

琴平山

郡の西部に南北に横れる一長峯あり、此の南半即ち琴平山なり、其の形状恰も象の如きを以て中古より象頭山と稱し來り神威赫々たる金毘羅大權現の名と共に四海に知らる、然れ雖維新の際社号を改むるに當り山名も亦大古に復し琴平山と名着けられたり、一山總て老松、古杉、楠、榉の大木鬱乎として繁茂し金刀比羅宮は其中腹に位し寔に森嚴の神境たり加ふるに山姿秀麗にして遠く飯山を望み近く鞍懸、愛宕天神の諸峯と連り烟嵐、晴風、四時折々の季節に随つて楓、櫻、雪月の眺望絶雅なりされば俳宗蕪村は「三日月の牙とき出す象頭山」と吐けるありて幾多の詩歌俳句多し況や大樹雲を凌ぎ、雜草地を覆へるを以て常に降雨多く、琴平山夕立の名亦甚た高し、爰を以て大正御代 今上陛下御即位の大禮を行わせらるゝに當り主基四季の



(山頭象名一) 山平琴

繪屏風に貼付せる色紙夏の一歌は特に本山の夕立を撰び子爵入江爲守の咏じたる「あまつ雲ふり渡るらん神のますことひら山の夕立の雨」の一首を謹書せられしより益々此の勝景を天下に認めらるゝに至れり

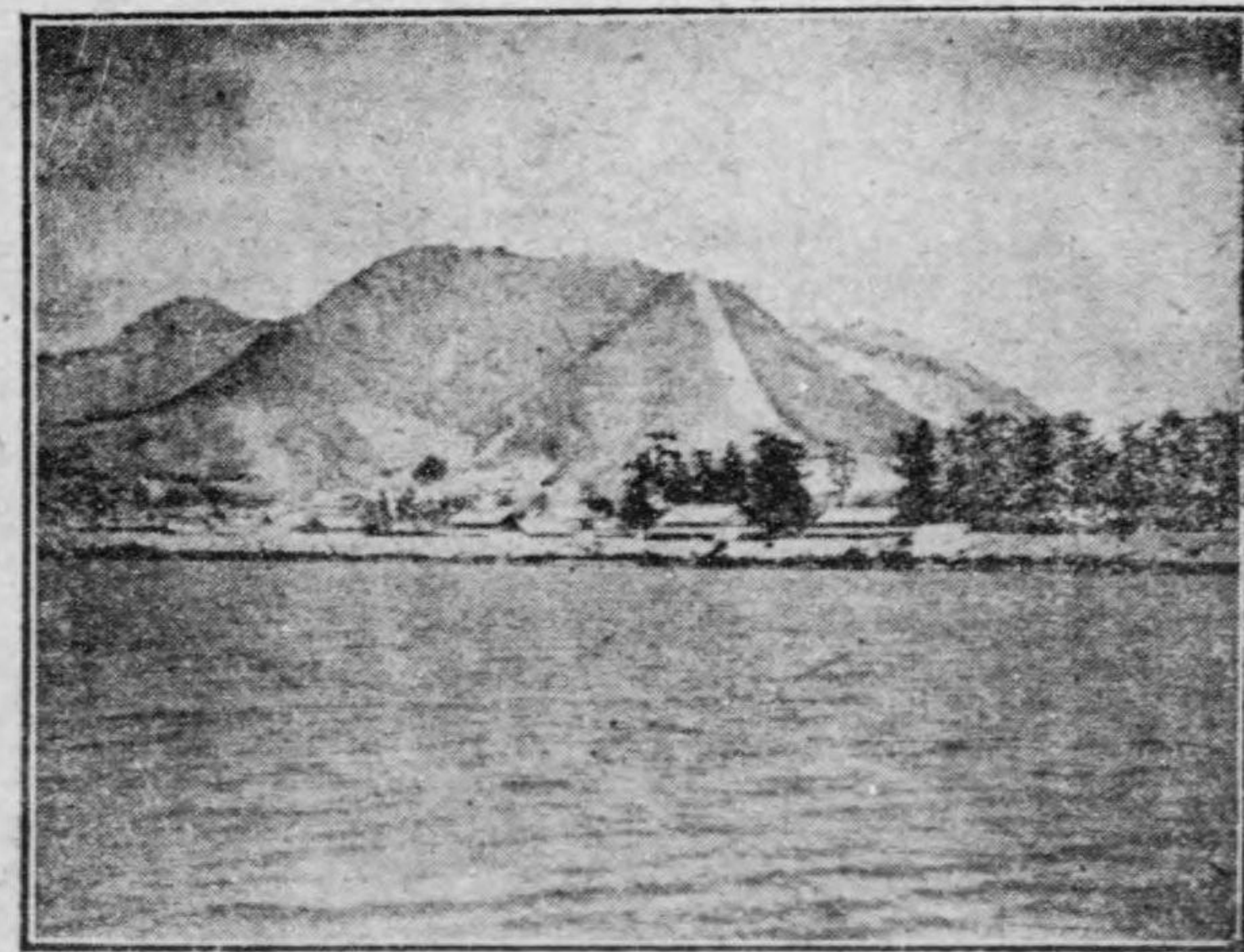
天霧山

吉原村の北に聳へ東西に蟠まれる高峯なり西に彌谷寺あるを以て一部を彌谷山とも云ふ嘗て天正の昔し香川家の居城にして讃州第一の名城と呼ばれ今も其の頂に古址あり四方の展望に善く筆の海は更なり蘆飽諸島も眼下に納めて宛然、幅の繪畫を見るが如し就中雪の景色は一入佳なり

り爰を以て今上陛下御即位の大禮を行はるゝに方り主基四季の屏風に貼付せし色紙の歌中冬の歌題は實に此の天霧山に取りて子爵入江爲守の詠進せし「久方の天霧山にふる雪は君か千代をつまんどすらむ」の一首にぞありける實にや栖鳳畫伯の繪畫と相俟つて天霧山の風景を發揮したるものと云ふべし

師團官衙

△第十一師團 善通寺町にあり明治三十一年の設置にかゝり當初四國四縣を統轄して居たが其後管轄變更して目下は香川徳島、高知の三縣の健兒を統轄して居る現時の師團長は中將蠣崎富三郎氏で參謀



山霧天の雪



長國師崎蠣さ部令司團師一十第

長は歩兵大佐小川賢之助氏である衛戍地に於ける部隊及部隊長は左の如し

第十一師團司令部

- 經理部長 一等主計正 河内兼次郎
- 軍醫部長 一等軍醫正 中村秀樹
- 獸醫部長 三等獸醫正 關家幸三郎
- 法官部長 理事 佐原寅三郎
- 第二十二旅團司令部
- 旅團長 少將 向井齊輔
- 善通寺聯隊區司令部
- 司令官 歩兵中佐 大川盛行
- 步兵第四十三聯隊
- 聯隊長 歩兵大佐 林 二輔
- 騎兵第十一聯隊
- 聯隊長 騎兵中佐 高州一萬太郎

野砲兵第十一聯隊

聯隊長 砲兵中佐 桑田安三郎

工兵第十一大隊

大隊長 工兵少佐 間道 磨

輜重兵第十一大隊

大隊長 輜重兵少佐 淺井光三郎

善通寺衛戍病院

病院長 二等軍醫正 中島藤次郎

善通寺陸軍兵器支廠

支廠長 砲兵少佐 山田與吉

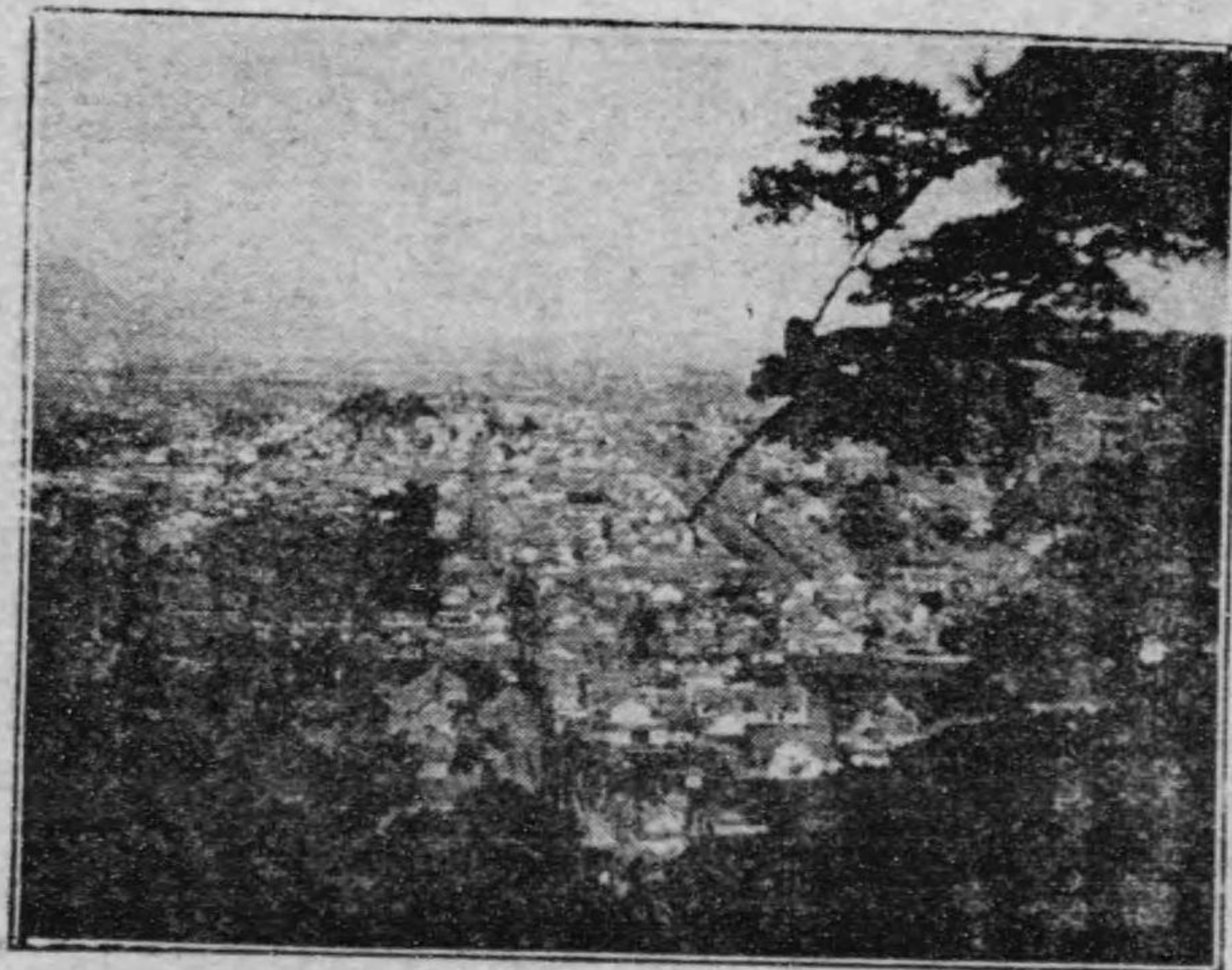
善通寺憲兵隊

隊長 憲兵中佐 鈴木武臣

△仲多度郡役所 善通寺町にあり明治十

一年の設置にかゝり全三十六年九龜より

移轉し更に大正五年四月新廳舎落成と共



善通寺町の全景

に現在の所に移轉す(巻頭寫真版参照)

△丸龜區裁判所琴平出張所

△丸龜區裁判所多度津出張所

△善通寺警察署

△琴平警察分署

△多度津警察分署

△多度津測候所

△專賣局池田支局琴平出張所

△神戸遞信管理局海事部多度津出張所

△燈臺

琴平町

多度津町

善通寺町

琴平町 (明治十年設置)

多度津町 (明治十九年設置)

多度津町 (明治二十五年設置)

榎井村

多度津町

與島村鍋島(明治五年設置)

町 村 地勢と沿革

これから仲多度郡内三町二十四ヶ村の地勢及管轄の沿革等を述べて見やう先づ郡の
支關たる多度津より漸次南に向ひ善通寺、琴平等を過ぎ郡の南端迄行き、後戻りし
て鹽飽七島の各村に至る迄順路的に掲記すれば



四國水力電気株式会社

多度津町

七〇

△地勢 本町は仲多度郡最北部に位し東西十丁南北十二丁餘の廣表を有し北は筆海に面し西は本台山を隔て白方村に接し南は四ヶ村、東は豊原村に接せり
 櫻川は其源を四ヶ村に發し本町の中央を貫流し、港灣の東にて海に注ぐ。地勢は概ね平坦なるも、西方の一部分は一帶に山を負い氣候温暖にして嚴冬の候と雖も氷雪を見る事甚稀なり。港は四万九千九坪餘の外港と二万二千四百十二坪餘の内港を有し眞島、牛島、廣島、佐柳島、高見島、志々島等の島嶼は遙に其三面を擁し大風の際、強波怒濤の襲來を防ぐ便

あるに依り日々數十の汽船、數百の和船輻湊するを以つて各地との交通甚だ至便なり又陸には鉄道及縣道縱横に通じ縣内の各地は素より愛媛高知、徳島等各要地への交通運輸自在なり而して本町の主業は商買なれ共、東西の一局に五十餘町歩の至つて豊壤なる耕地あり尙又東北の一隅に漁撈部落を有す其産物の重なるは米及麥なり
 △管轄の沿革 本町は維新前は京極氏の封地なりしが廢藩置縣後は多度津村は新田村に合併し又新田村は多度津村と分離して堀江村に合併せし事あり分離合併に數回の變遷ありたして塩田角治合田房太郎の両氏あり尙實業家として名聲高き景山甚右工門（前代議士、郡教育部會長にして四國水力電気會社副社長）武田熊造氏の如き人あり現町長今井浩三氏は縣會議員を兼ね、又縣會議員西川虎一氏も當町の出身にして郡會議員



小郡參事會芳助氏

七一

は小國芳助(郡參事會員)森庄太郎の両氏である
 △名勝古事蹟 桃山、筆の海、西方寺趾、往古の汐川神事場、普門寺の趾、多度津城趾、京極陣營等

□白方村

△地勢 本村は東西一里十丁南北三十丁、半島形をなし全面積五百三十七町四反、平地四分五、山地五分五、の割合、東南は城山を隔て、本郡多度津町及四ヶ村に堺し南西は天霧山麓に循ふて吉原村に堺す西方八國山は三豊の郡境を示す北部一帯は海に對し志々粟島及塩飽諸島。隱約の間に基布散点頗る風光に富む、弘田川は源を本郡善通寺町字有岡大池に發し四ヶ村を横斷し本村に入り遂に海に注ぐ、河幅甚だ大ならず、流域亦短く水利の便乏しきを以て、昔時四ヶ村大字山階の獨立村たりし時代にありて協定、該村の北邊に水附と稱する溜池を設置するの外、村内各所に大小の溜池數多を築設し、以て灌漑の用に充つ、平地は概ね膏腴にして、穀類其他の産物相應の收穫を見る、山地は八國山の一部より奥石と稱する石材を産出す、之等は井戸側礎石其他工作用として近郷各地及丸龜附近迄需用者多し大字西白方沿海に

漁民部落あり海藻魚介の利を逐ひ海上業務に服し其生計を營むもの戸數約四十、氣候温暖にして氷雪稀に人跡に適順せり生業者の多數は農にして商漁工の順序を以て之に次ぐ

△管轄の沿革 本村は往昔白瀉と稱し一村なりしを後世二村となり東白方浦西白方浦と云ひ奥白方を併せて三白方と稱し三井の郷に屬し獨立の三村なりしが明治十七年十二月三村聯合一戸長役場區域内に統屬せらる明治二十三年町村制實施に當り三村合併し一獨立村とし白方村と改稱現今に至る。村長は香川知足氏で郡會議員山地岩太郎氏は郡農會長にして郡内の重鎮である

△名所古事蹟 白瀉の濱、海岸寺、加富良津社の趾、童子堂の趾、時公塚、胞衣塚駒立岩、笹石、産湯水、浴巾掛松等にて熊手八幡宮は三白方莊、青木多度津等の六村より祭れる氏神である

□豊原村

△地勢 本村は仲多度郡の北端に位し、東六郷村大字下金倉及上金倉並に龍川村大字金藏寺の一部と接し南は善通寺町大字稻木、筆岡村大字中村の一部、西は四ヶ村

大字三井及庄、並に多度津町の一部に接し北は瀬戸内海に面す東西十一丁三十間南北三十五丁五十五間の廣袤を有す地形恰も鎧人形の如し東西狭く南北長く南端狹隘なり全村平野にして農産物に富む、灌漑至便ならずして大字葛原道福寺は主として溜池により大字南鴨北鴨堀江の三字に至りては溜池の設備なく湧泉の湧出を以て充つる現況にあるを以て時々旱害を免れずと雖も河川のなきを以て水害の憂なし大字葛原の南端には約二町歩の森林藪藪として一千餘年を経たる樹木生茂せり平地には稀に見る所なり、北方には縣道多度津線、及鉄道讚岐線あり南には郡里道即ち舊伊豫街道あり、西に南北に縣道多度津線ありて交通至便なり氣候中和を得て氷雪稀なり北端瀬戸内海に面するも港灣なく村民農を以て專業とし人口稠密す

△管轄の沿革 本村は町村制實施の際葛原村、道福寺村、南鴨村、北鴨村、堀江村の五ヶ村を合併して豊原村と稱し前記五ヶ村は現今の大字にして爾來何等の變動なく今日に至る。村長は山本勇氏で頗る名望家である郡會議員は坊上幸太郎氏で前村長柴田庫之助氏は元郡會議長をも勤めた人で今も尙村の爲めに盡して居る

△道隆寺 四國第七十七番の靈場にして當村大字北鴨にあり、天平神護二年和氣道隆の創立にして其諱を以て寺號とす應仁の比大亂の爲め衰微せしを寶永年間山地保

祐金堂再建復興せりと云ふ佛畫佛像の寺寶多し

△其他の古事蹟 神宮寺の趾 道福寺の趾 若女宅趾、氏神は鴨大明神、弘濱八幡神社、八幡神社の三社あり

□四 箇 村

△地勢 本村は仲多度郡の北部に位し東西三十一丁南北二十八丁の廣袤を有す其東南は平地にして豊原筆岡の二村に接し西は天霧山の一部を隔て、吉原及白方の一部に堺し北方桑山の山脈を以て白方村多度津町に隣す弘田川は善通寺町より筆岡村を経て村内山階を貫流し白方村に至りて海に注ぐ土壤肥沃、農産に富み、氣候温暖にして氷雪少く、生物の發育に好適せり、全村を區畫して山階三井、庄青木の四大字とす

△管轄の沿革 本村は町村制實施の際山階三井、庄青木の單村を合せて一團とし四ヶ村と名け自治体を組織して現今に至る。村長は香川濯櫻氏で多藝多能の人である助役の龜山僧壽氏も亦頗る篤實家で村内は誠に圓滑に総て秩序的に發達して居る當村選出の郡會議員は龜山滿壽夫氏である

△名勝古事跡 願成寺趾、賴政居趾、星谷、杖の井

七六

□筆岡村

△地勢 本村は仲多度郡の西部に位し地形長方形にして平地なり其の面積三百七十八町九反六畝一步より成り内耕地反別二百四十八町五反三畝六步宅地七万二千四百四十四坪三勺其他山林原野、雜地、溜池道路、河溝、第十一師團練兵場、及火藥庫敷地等合して百六町二反八畝一步にして戸數五百五十戸人口三千四十三人あり弘田川は其水源を善通寺町大池に發し屈曲して練兵場の西端を流れ本村の大字弘田の中央を貫流して四ヶ村及白方村を経て海に入る河幅六間餘流域僅かに三里に過ぎず氣候温暖にして氷雪少く土地一般に肥沃にして能く生産物の發育に適し村民は農を以て專業とす凡て農産物に富む全村を區畫して弘田中村の二大字とす

△管轄の沿革 本村は中村及弘田の二大字より成る明治十七年十二月以前は中村、弘田と稱する獨立村たりしが明治十八年一月合併して中村外一ヶ村と稱し明治二十三年一月町村制施行に當り筆岡村と改稱して今日に至る。村長は乾新三郎氏助役は長谷川季男氏で何れも村内の素封家で頗る德望高き人達である、郡會議員は郡制實

施以來引續きて選出されて居る郡内の重鎮乾金次郎氏で尙德望家として乾千太郎氏原成造氏あり筆岡郵便局長大西鳩居氏は歌俳諧生花茶の湯の宗匠である當村には師團長以下軍隊樞要の地位にある人が多數寓居されて居る

△氏神 雲氣神社、春日大明神、木熊野神社の三社あり

△名勝古事蹟 甲山寺(四國靈場第七十四番の札所)、筆の山、甲山城趾、仲村城趾
朝比奈墓、平塚、矢留松、惠美壽泉

□吉原村

△地勢 本村は仲多度郡の西部に位し東西二十七丁南北三十一丁の廣表を有し連山は村の西口を封鎖し地勢東に向て展開す其形恰も箕の如し東北平坦にして東は筆岡村北は白方、四ヶの二村に接し西南山脈を以て西三豊郡大見村南全郡上高瀬村及善通寺町に界す西に天霧山あり南に火上山我拜師山あり、高峯雲に聳へ以て天然の村界を畫す土地肥沃にして農産物に富み米麥大根作に最も適す氣候温暖にして霜雪少く桑樹柑橘苹果桃の栽培に適す

△管轄の沿革 本村は藩政時代は、吉原は丸龜藩に碑殿は多度津藩に屬し王政維新

七七

後尚兩村を存続せしか明治二十三年町村制施行の際兩村を合併し吉原村と稱し以て現今に至る。村長は秋山美鹿氏で郡會議員は福崎祐市氏である眼科醫として有名な松岡小太郎氏も當村の人である

△曼荼羅寺 弘法大師唐より歸朝の後兩部の曼荼羅を書寫し之れを安置し建立せられたる靈跡にして四國靈場第七十三番の札所なり境内に有名なる大師手植の不老松あり

△出釋迦寺 弘法大師釋尊の出現を祈願せし有名の靈場にして四國靈跡第七十三番の札所なり奥の院は我拜師山にあり禪定と云ひ又捨身ヶ嶽とも稱へ大師初時の修驗場たりし靈迹なり

△其他の古事蹟 水莖岡 天霧山、人面石、山里庵、禪定石窟、雨霧山城趾、芋畑世坂、牛穴、蛇石、青鷲水、笠掛櫻等あり。鷲井神社は吉原の産土神にして、東西神社、水分神社、菅原神社等あり

□善通寺町

●地勢 本町は仲多度郡中央部の西方に位し金倉川の左岸に沿ひ大麻山の東麓より

北方に亘り西方を上位とすれば恰も凸字形の廣濶なる地域を占有す四隣の境界は東方は鐵道線路並に金倉川を以て象郷村、與北村、龍川村に隣し南方は琴平町に連り西は大麻山麻越東部山大日越我拜師山に亘る頂界線を以て三豊郡麻村上高瀬村に境し北方は我拜師山の線



氏郎五文川大 員議會縣

並に練兵場を隔て、吉原村、筆岡村、及豊原村に接す。地形は一般平坦にして南北より北に向つて僅少なる緩傾斜を以て漸次低下し東南北の三面は全く敞開す地味又瘠瘦す。土壤は一般に細砂を混する粘土質にして能く乾燥し易く氣候溫和四時農産業に適す生産物は米麥を以て第一とし蔬菜の收穫之に亞ぐ頃日桃李柑橘の栽培漸次發展の狀勢に在り。弘田川は其源を本町大字善通寺大池に發し一旦東方に流れ香色山南麓より東麓に沿ひ北流して善通寺練兵場の西端を横り筆岡村に入る其



善通寺仙遊ヶ原

八〇
 他水脈上に關しては特記すべきもの無く
 灌溉水は主に各所に存在せる沼池並に湧
 泉に仰ぎ一部分満濃池水を引く一般に排
 水の利に富み害を蒙る事尠なし
 △管轄の沿革 市町村制施行の際に於て
 は善通寺村、麻野村(生野大麻)吉田村(稻
 木上吉田下吉田)の三ヶ村にして善通寺
 村に弘法大師誕生所なる善通寺あり、其
 附近に小市街を有するの外共に偏在せる
 一農村に過ぎざりしも日清戦役後軍備擴
 張せらるゝに方り適々明治二十九年第十
 一師團司令部を麻野村大字生野鶴ヶ峯高
 地の北麓に置き其他の諸隊を同村及善通
 寺村に設置せられたるを以て街區の設計
 行はれ吉田村大字上吉田は全然善通寺村

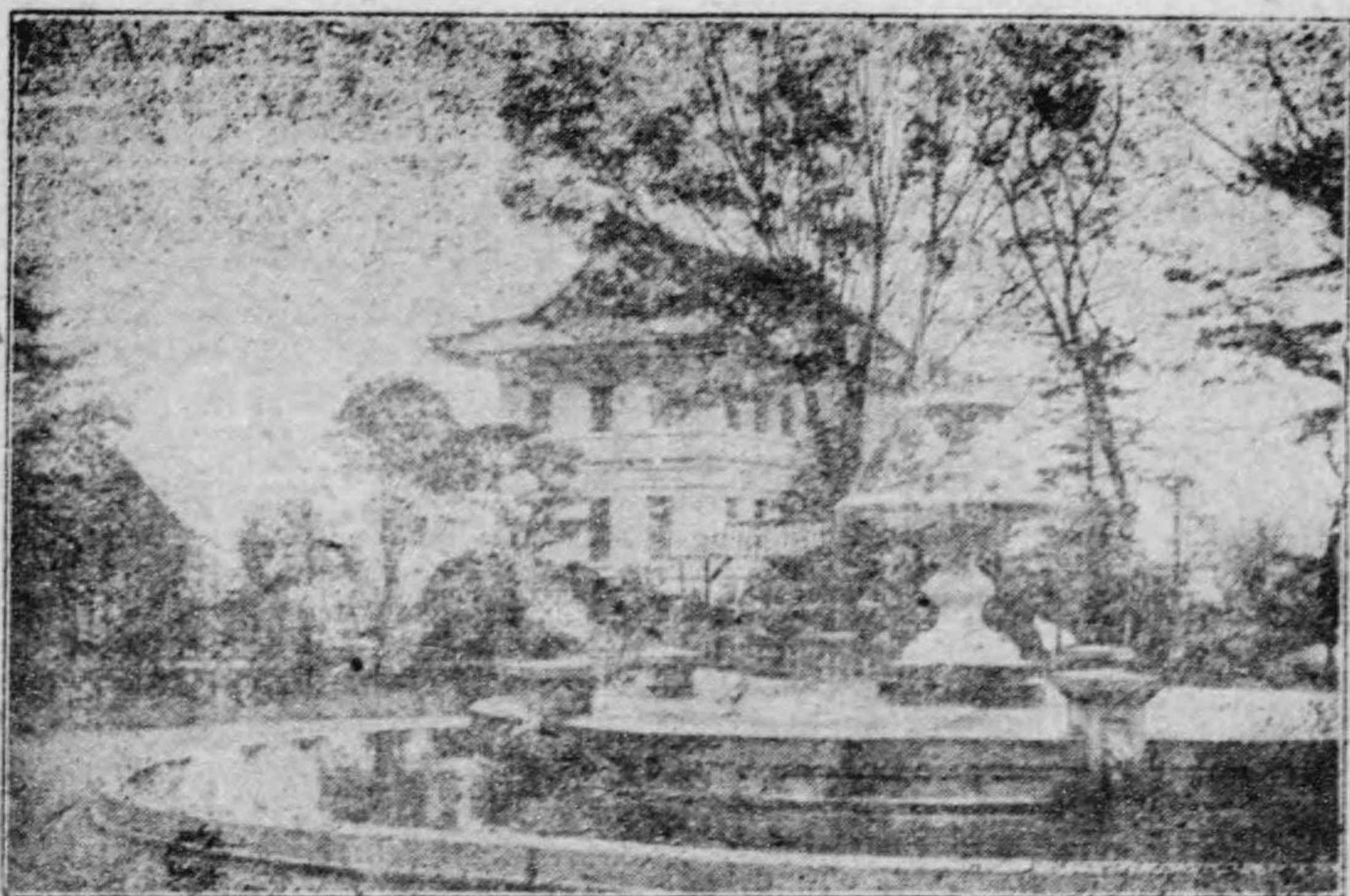
し基年ならずして會社商店軒を連ね前日の農田をして俄然大市街を形成せしむる
 に至り従て急潮なる人口の増加を示し商業日に殷盛を呈す茲に於てか善通寺麻野吉
 田の三ヶ村は地理的關係上合併を行ひ町を編成するの必要を認め町制を布く事に一
 致協定し明治三十四年
 十一月三日を卜し善通
 寺町と命名し之が實施
 を見るに至れり現町長
 石原小治郎氏は多年縣
 會議員とし將又町制施
 行以前より村長其他の
 名譽職として最も當町
 以同業組合長等をも兼ねて居る又當町尋常高等小學校長平尾宇吉氏及第三尋常小學
 校長武内憲三氏は何れも教育功績者として文部省より選奨されし人々であつて此外
 郡の重鎮と目され居れる松浦英治氏も當町の人である



郡參事會員 松浦覺治氏

の功勞者であつて現
 任縣會議員は石原氏
 の後を享け七大川文
 五郎氏にして郡會議
 員は松浦覺治(郡參
 事會員) 請川伊三郎
 遠山源治の三氏で遠
 山氏は郡産牛組合長

△名勝舊跡 古刹善通寺の末尾に掲げたる外永井の清水、葵瀧、清少納言衣掛松、

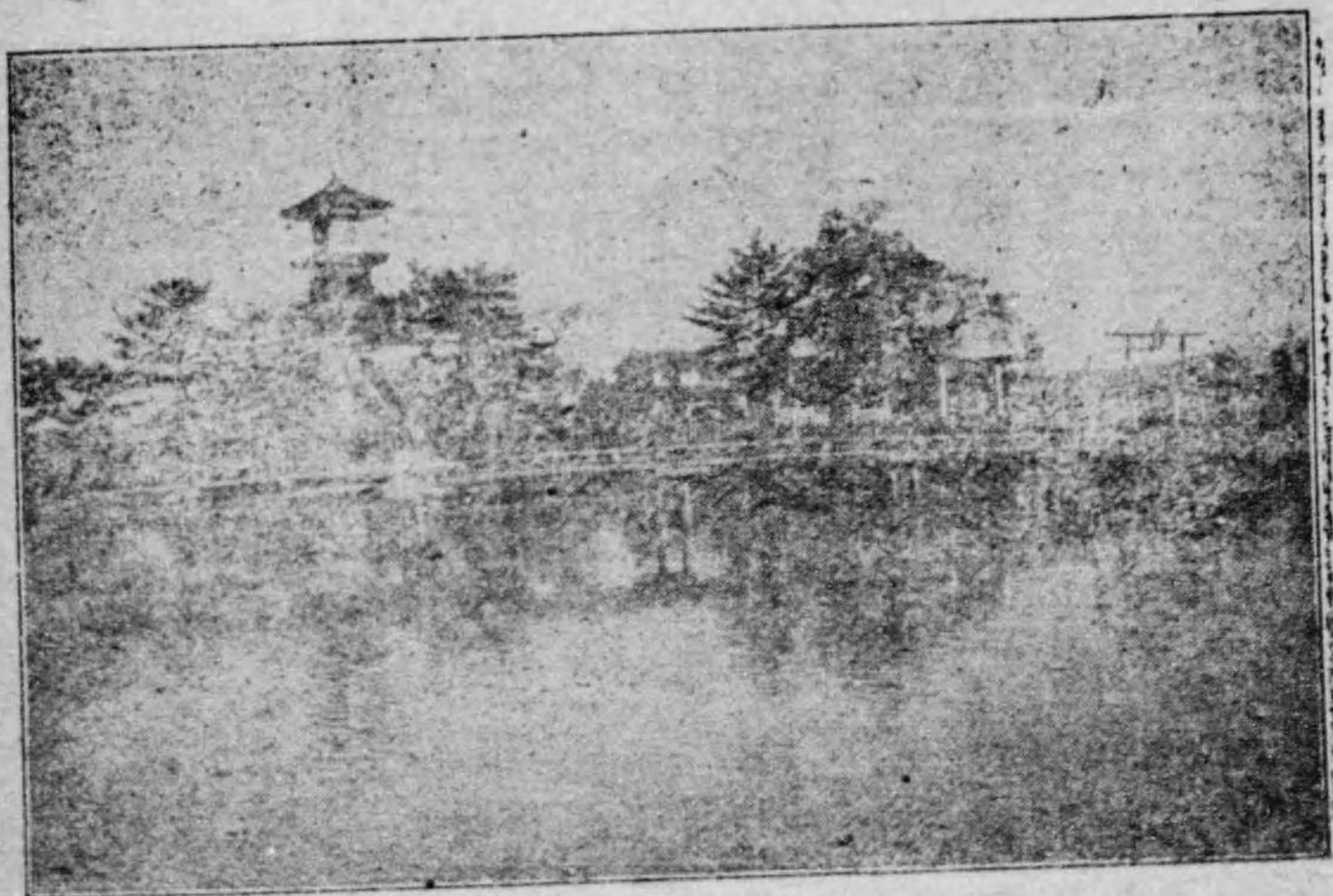


琴平寶物館

八二
磨臼山城趾、遠藤塚等
△郷社大麻神社 延喜式内讃岐二十四社の一にして祭神は天太王命 外三十二神なり
△其他の神祠 北向八幡社、吉田八幡社 十二社権現等

□琴平町

△地勢 本町は仲多度郡の西南部に位し國幣中社金刀比羅宮鎮座せる象頭山の東山腹にあり其半は山麓の平地に市街をなし西南は山岳を隔て、三豊郡麻村及十郷村の一部に接し北方の一帯は廣谿にして善通寺町の一部及象郷村に面し讃岐富士の裾ある飯山に對す、而して東方は榎井



琴平高燈籠

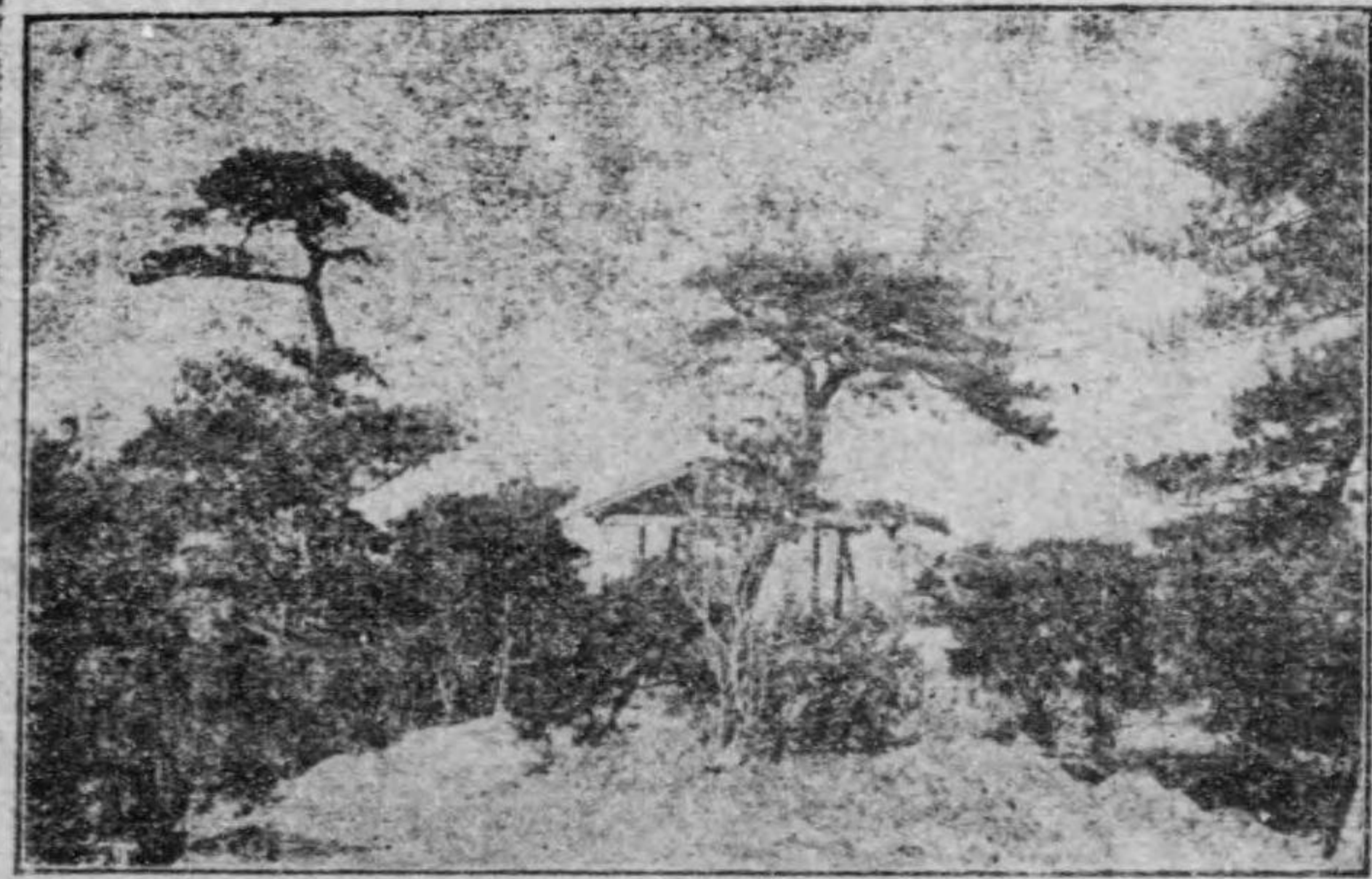
神野の両村に接續し水源を七箇村楮入より發する金倉川町の中央を貫流す爲に字川西川東の稱あり地味概ね肥沃にして耕作に適す

△管轄の沿革 本町は市町村制施行の際琴平村と稱せしが町と改稱し他と合併せず現今に至る

△名物 當町に於ける一番の名物は旅館である先づ有名なる虎屋、備前屋、櫻屋を始め琴平花壇、都屋、敷島、登茂久、松吉、壽し駒等何れも設備其他に於ても立派なものである産物は飴、やすり、美久里繩、彫刻物、金刀比羅船々煎餅、柚餅子、鋸等で秋季琴平山の松茸も名高いものである

△町長は澤原貞吉氏で、郡會議員は三谷九八（副議長）平田元次郎の両氏である、それから金刀比羅宮々司琴陵光熙、全禰宜村上太市、郵便局長三輪繁太郎、琴平銀行専務取締役石田甚吉、内田浴巾工場主内田六平の各氏は何れも本町の重鎮で又學校運動具廻旋塔の發明家として世に知られて居る都村藤吉氏も當町の人である尙此外清酒金陵の醸造元徳島縣の豪商西野嘉右工門氏も半ば本町に寓せられ多數の店員を使役されて居る

△琴平公園 本町の南方天神山東麓より祖谷山頂に至る丘陵にして頂上の扇台より展望すれば讚備の水光双眸に映し其風景絶佳なり
△鞘橋と神事場 愛宕山東麓石淵川に架す、屋根を設けたる奇橋を鞘橋と稱す神事場其附



琴平公園



琴平神事場

近にして數幹の老松空を蔽ひ塵外の一仙境をなす毎年十月十日夜半神輿の渡御あり

△小瀧温泉 天然の風致に富み閑雅幽邃鑛泉湧出す旅館の設備あるを以て浴客の來集多し

△其他の名勝古事蹟 金刀比羅宮附近の名跡に擧げたる外、愛宕山城趾、西山城趾、清少納言墓、宥範僧正墓、金光坊宥盛墓、獄川人形、告の茶屋

□十郷村

△地勢 本村は仲多度郡の西南端に位し東西一里六丁南北二里十六丁の廣袤を有し地形細長にして恰も人の立ち踊

るが如し東は神野村七箇村に西は三豊郡麻村神田村及財田村に接し南は徳島縣三好郡晝間村に界し北は神野村琴平町に接す村内到處小岳小丘起伏し其間に平地を有す南端に聳立し東西に連亘る一帯の山岳は之を山脇山と稱し阿讃の國境たり有名な轟の瀑布は此山中に在り中央東西に蜿蜒たる山脈によりて地勢自ら南北の二つに分れ分水嶺を爲す川は南部に多治川、黒部川、新目川、大口川、追上川あり、北部の買田川は金倉川の支流にして源を大字佐文及追上(一部)宮田生間等の各部落より發し買田部落を貫流し神野村大字五條に至りて本川に合し財田川の支流たる大口川は後山大口の山間より發源し大口部落を西流し追上に至り更に追上及三豊郡財田川の一部より出づる追上川と合し財田川に入りて本川と合し財田川の上流たる新目川は源を七箇村壺入釜ヶ淵に發し新目部落の中央を貫流して財田村に出で多治川之れ亦財田川の支流にして七箇村多治川山及本村山脇山より發源し村境にて山脇山より出る黒部川と合し財田村の一部を経て同村内にて本川に合す地質は土地によりて一定せず土壤粘質ありて地味の肥瘠概ね相半し農作物は主として米麥を産す、氣候は概して溫暖なるも南北によりて稍其度を異にし南部は北部よりも冷氣強く冬季は霜雪の度多く時に之が被害なきに非ざるも村を通して生物の發育に適す全村を區畫し

て十郷佐文の二大字とす

△管轄の沿革 本村は維新前には西七箇村と總稱し買田村、生間村、宮田村帆山村福良見村(今の帆山の一部)後山村大口村追上村新目村山脇村の十ヶ村を有せしを明治七年九月之を合併して十郷村と改め之れに佐文村を加へて十郷村外一ヶ村と稱せしを同村制施行の際兩村を合併して更に十郷村と改稱し以て現今に至る。

△村長は大西貞次郎氏郡會議員は重田熊次郎氏で何れも郡内にも頗る有力家と目されて居る

△名勝古事蹟 轟瀧、法然堂、新目、山脇、生間、佐文の各城趾、王墓、菖蒲石等

△氏神は元十ヶ村に有りしを以て各字にて都合十社あり

□七 箇 村

△地勢 本村は南北二里東西一里に満たず地形恰も唐犬の座すが如き形をなし平地は山地に比し十分一に足らず東は綾歌郡造田村長炭村の兩村及本郡吉野村に接し西は十郷村より北は神野村大字眞野に接す南は山脇を以て阿波國に界す一帯の山岳南方に連亘し村内又斷續起伏して二三の峯巒あり、溪川は凡て南方阿讃境界の山溪に

發源し村内中央部を貫流して十郷村に流る急流にして水利の便に乏しきを以て各地に溜池を築き以て灌漑の用に充つ土壤膏腴にして穀物林産物に富む氣候温暖にして氷雪少く冬季僅に南部の山岳に積雪を見る克く人体に適せり全村を遙じて大字塩入大字七箇村の二大字とす



増田郡参事會員 良氏

△管轄の沿革 町村制實施以前は七箇村外三ヶ村役場と稱し七箇村、塩入村、東七箇村、眞野の四ヶ村より成り、實施の際東七箇、眞野の二ヶ村は隣村神野に合併し爾後大字七箇村、大字塩入の二大字を以て七箇村と稱し現今に至る

△村長は増田正三氏にして郡會議員は増田一良氏(郡参事會員)なり尙現代議士増田穰三氏も本村の出身なり

△名勝古事蹟 釜ヶ淵、金剛岩、尾脊寺趾、大西城趾、藤目城趾、本目城趾、春日城趾、城丸山城趾 向井丹後墓等 氏神は白鳥神社春日神社山戸神社の三社である

□神野村

△地勢 本村は仲多度郡の南部に位し東西一里六丁南北一里三十五丁の廣袤を有し、西北は平野にして、琴平、榎井、四條、の一町二村に接し、東南は山を以て十郷、七箇、吉野の三村に界す、南東隔丘陵起伏の間に滿濃池あり之より發する小流と七箇村より流出する照井川と合して金倉川の上流をなし村の北端を西に流れ下流十郷村より流出する買田川と合して琴平町に入る、琴平より徳島縣へ通する塩入街道は村の中央を貫通し交通便利なり東西北は田圃遠く開け土壤豊肥農産物に富む氣候温暖にして氷雪少く生物の發育に適



琴平平橋

△管轄の沿革 全村を區畫して東七箇、眞野、岸上、五條の四大字とす明治十八年一月眞野村、東七ヶ村は七箇村へ合併し七箇村外三ヶ村と稱し岸上村は五條村外一ヶ村と稱せしが明治二十三年町村制實施に付き四部落を合せて神野村と稱す

△村長は今田政太郎氏にして郡會議員は石井虎次郎氏である前郡會議員神余常次氏は永らく村長をも勤めつて村内の重鎮である

△名勝古事蹟 久保の宮、神野寺、福樂寺、法熊上人庵趾、護摩壇趾、酒部黒麿館趾、山川大膳基、七人塚、等神祠に久保神社、神野神社、大井八幡神社あり

□吉野村

△地勢 本村は仲多度郡の東南部にして東西二十五丁南北二里十丁の廣袤を有し、東南は山を以て綾歌郡造田村、本郡七箇村大字塩入、神野村大字東七箇に界し西北は平地にして神野村大字眞野、四條村大字吉野下綾歌郡長炭村大字炭所西及土器川を挟みて長炭村大字長尾に界す東南方なる山岳は阿讃山脈に連亘起伏し二三の峯あり就中字五毛前山なる前山を以て高大なりとす、江畑川は東南方なる綾歌郡造田、

長炭兩村の山間より發し村内字五毛合股、五毛上所の字界を貫流し亦本谷川、長谷川の二川は何れも村の南方なる山間より發して江畑川と共に満濃池に注ぐ江畑川、長谷川本谷川等の流域は土壤豊沃と云ふに非らず、亦村の北川なる平地に接する土器川は綾歌郡の西南方なる山脈より發源し北流して瀬戸内海に入る土器川の流域は



氏吉雄名新員會事參郡

土質豊沃にして農産物に富む、村の西部に接する金倉川の流域は土壤土器川の流域に亞ぐ隨て農産物亦是に比す、村内に於ける氣候は温暖にして氷雪亦尠し生物の發育に適す、全村を區畫して五毛、高屋原、黒見、塙正、光本、旭東、木の崎、野津郷、宮東、宮西、中村、八幡の十二部落とす

△管轄の沿革 本村は元高松藩に屬して往古は仲多度郡四條村の内大字吉野下村を割きて吉野上村と稱せしが町村制施行の際より吉野村と改稱し現今に至る

△現村長安達賢氏は陸軍二等主計で全氏の親父で地方での徳望家にして村民の尊敬

深き安達熊三郎氏は久しく村長の職にあり尙縣會議員をも勤め村治上や殖産興業やの功勞者として表彰された人である又郡會議員新名雄吉氏(郡參事會員)は頗る舊家で郡内の名望家である

△古跡としては酒部成善館址がある、氏神は大宮神社、八幡神社である

□四 條 村

△地勢 本村は仲多度郡南部に位し東西十七丁南北二十八丁の廣袤を有す地形は東西に短く南北に長くして恰も法螺貝の如し、而して村内概して平坦にして東は土器川を境して綾歌郡長炭村に對し東南は吉野村に接し西南は神野榎井兩村に界し北は高篠象郷村と犬牙相交はる用水路たる滿濃池は南方小沼が峯に發源し村内中央部を貫流す該流域は土壤豊肥にして農産に富む氣候温暖にして氷雪少く生物の發育に適せり、全村を區畫して吉野下四條の二大字とす

△管轄の沿革 本村は明治二十三年市町村制實施の際四條、吉野下村を合併して四條村と改稱同時に四條吉野下の二大字を設置され現今に至る

△現村長は田岡和多三氏にして郡會議員は大西精一氏である

△名勝古事蹟 祓川、眞福寺、清福寺、弘安寺等の趾

□榎 井 村

△地勢 本村は仲多度郡南部の中央に位し地形方形山岳河川なく土地概ね平坦にして東南より西北に稍低し土壤豊肥にして氣候温暖農商業に適せるを以て半商半農の地なり村の南部を東西に貫通する縣道兩側は商家櫛比し琴平町に連続し町の形を成す

△管轄の沿革 本村は市町村制實行當時已に獨立區域にして榎井村と稱したり

△本村は元天領と稱して幕府の直轄なりし爲め、古來英雄豪傑の來遊せるもの多數あり、勤王家、日柳燕石、奈良、廣葉、長谷川佐太郎の諸名士は皆本村の出身にして尊攘當時天下の志士の多くは當地方に寄寓して沈謀潛略肝膽を照し居りたりと云ふ

△現村長は丸尾重雄氏にして前縣會議員の職に在り郡内有爲の人物である、又前代議士にして現東洋拓植會社理事堀家虎造氏も本村の出身で上谷久平、上阪金四郎(郡會議員、榎井郵便局長)三木清一郎の諸氏も當村の人で何れも郡内の重鎮として目されて居る

△名勝古事蹟 は石川城趾、本莊城趾等で氏神は春日神社である

□象 郷村

九四



氏一英西大 員議會縣

△地勢 本村は仲多度郡稍南部に位し東西十五丁南北三十五丁の廣袤を有す、地形恰も瓢を縦断せし如し全村概ね平坦にして南は琴平町及榎井四條の両村に界し東は高篠村に隣り西は金倉川を跨り善通寺町大字大麻生野に接す北は與北村に界し境上に櫛梨山の城趾を有せる如意山あり満濃池用水路は東南より來り西北に流れ金倉川に入り灌漑の便あり木の崎線郡道は與北村より分岐し上下櫛梨の東端より苗田の稍や東部を貫き榎井村に入り大麻線郡道は西善通寺より來り上櫛梨北部を貫通して高篠村に入り、尙中央道は村の中央を南北に貫きて南は榎井村北は與北村に通ず、全村土壤豊肥にして農産に富み、氣候温暖にして氷雪少く生物の發育に適せり

△管轄の沿革 本村は苗田、上櫛梨、下櫛梨の三大字を有す、維新の昔は大字苗田

は天領と稱し徳川將軍家直轄の地又上櫛梨及下櫛梨は丸龜藩京極家の領する所たり明治九年頃の本村は五十八小區の内に管轄せられ全一十一年頃戸長役場の制を布かれて上櫛梨外二ヶ村戸長役場と稱し居りしが全二十三年町村制施行せられ即ち三大字を合して本村を形成せり

△本村 は大正四年畏くも 今上陛下御即位



氏吾林成行 員議會郡



氏郎太幸西大 長村郷象

御大禮に當り主基殿御庭用藁栽培地の榮を擔ひ全村大字上櫛梨大西佐次郎氏栽培奉仕者の任を負ひ村民舉つて熱誠従業の結果恙なく供納を終へたり、奉仕者大西佐次郎氏は豫て孝子の譽高く明治廿八年天間に達し綠綬褒章を賜はりし人なり

△村長大西幸太郎氏 郡會議員は行成林吾氏にして前村長大西

九五

英一氏(現縣會議員)前郡會議員氏家幣八氏等は共に郡内に於ける徳望家である
△名勝古事蹟 宥範誕生地、船磐、長谷川武左衛門宅趾、櫛梨城趾、片岡伊賀守及
馬墓、王墓、三田の泉等
△氏神、櫛梨神社(延喜式内讃岐二十四社の一)大歳神社、石井八幡神社

□高 篠 村

△地勢 本村は仲多度郡の東端にして中央部より稍や南に位し東西二十四丁強南北
三十四丁弱の廣袤を有す地形恰も螺の如くして殆んど平地なり、東は綾歌郡岡田村
長炭村に接續し、岡田村は牛頭山の絶頂長炭村は該山思案阪に連る佐岡山麓の夫婦
岩を以て境界とし、南は本郡四條村にして西は象郷村に接す、村の西北に如意山あ
り北連峰を以て與北村に接し北は垂水村に接す、而して村の東部を南北に貫流する
土器川あり、該川は其水源を阿讃國境大川山以東三登越邊より發し綾歌郡土器村に
至りて海瀕に注ぐ、其河幅均一ならずして或は廣く或は狭く爲めに一朝豪雨あらん
か忽ち渾沌たる暴水堤塘に溢れ山野田畑に氾濫し時々之か荒廢の怖れあるは本村の
最も憂慮する處なり。村内に一線の縣道と三線の郡里道ありて縦横に貫通するを以

て交通は便なり、土地は概ね花岡砂壤質にして水利の便乏しく故に河川、井、大小
の池水を以て灌溉の用に充つ、土壤豪腴にして氣候温暖氷雪少し故に農産物の發育
に適せり

△管轄の沿革 本村は東高篠、西高篠、公文の三ヶ村を以て一の管轄とし東高篠外
二ヶ村と稱呼し居たりしが明治二十三年市町村制實施に際し高篠村と改稱し同時に
三ヶ村は大字と爲して現今に至る

△現村長 は和泉秀八氏にして元小學校教員を勤めて居た人で頗る温厚家、郡會議
員は議員中の少壯者にして赤松保太郎氏である、前村長野溝貞良氏は多年村長の職
にあつて地方功績者の一人として曩に郡より表彰された人で善通寺實科高等女學校
設立者たる古市保太郎氏(前郡會議員)も本村の人である尙本村には富豪家が多く有
爲の人物も少なくないが枚舉に遑なきを以て茲に畧す

△名勝古事蹟 生福寺趾、鍛冶清房の宅趾、公文所、松端城址、圓淨寺、熊谷塚、
權太、松太塚、羽間峠
△氏神 雲氣八幡神社 富隈神社

□垂水村

△地勢 本村は仲多度郡の中央東部に位し東西十六丁南北一里余の廣袤を有し北は郡家村、南は高篠村、西は與北村に接し東は土器川を隔て、綾歌郡岡田村に界す、地形南北に長方形をなし土地平坦土壤豊肥にして農産物に富み氣候温和克く生物の發育に適せり

△管轄の沿革 本村は町村制施行前より垂水村と稱し村内に上代、中代、中村、西村、金竹、八尺、馬場、田井、行時、下所の十ヶ字を有し爾來配置分合なく以て今日に至る

△村長は元小學教員たりし長尾伊三次氏で郡會議員は郡内の重鎮尾松政次郎氏（郡參事會員）である

△名勝古事蹟 安樂寺趾、垂水城趾等

△氏神 垂水神社

□與北村

△地勢 本村は仲多度郡の中央部に位し東西二十丁強南北は二角の屈曲を有し東西より斜めに西北に延展する事一里十丁強なり東西北は平坦にして垂水、郡家、龍川善通寺の一町三村に接し南は山を以て象郷、高篠の兩村に界す村内平地八歩強山林一步九厘強なり幹流金倉川は村の西部を貫通北流するも水利乏しく溜池二十六ヶ所堀二十五ヶ所の設備あり土壤概ね豊肥にして穀類の產生に富み氣候溫暖なり

△管轄の沿革 本村は往古より一村獨立にして市町村制施行の當時に於ても廢置分合に到らず随つて區域名稱に異動なく依然與北村と稱せり故に大字のなき所以なり
△村長は堀家猪三雄氏で郡會議長にして郡實業會長たる堀家嘉造氏は本村の人である、前村長高畑耕三氏は本縣衛生課長高畑運太氏の嚴君にして頗る德望高く曩に文部大臣より教育功績者として選奨された人である

△名勝古事蹟 與北城趾、茶堂等

△氏神 皇美屋神社

□龍川村

△地勢 本村は仲多度郡の稍北部に位し木徳、原田、金藏寺の三大字より成り、木徳は村の東南部にありて與北及郡家村の二村に接し原田は村の東北部に位し郡家、南、六郷、の三村に隣り金藏寺は村の西部にありて南地に延長し與北、善通寺、豊原、六郷の一町三村に接す地勢平坦にして土地肥沃農産に適す、金倉川は村の西部に貫流して六郷村に至り海に入る

△管轄の沿革 本村は明治十八年原田村に金藏寺村を合し原田村外一ヶ村と稱せしが明治二十三年町村制施行の際隣村木徳村を編入し三ヶ村を合し龍川村と稱し今日に至れり

△村長は和氣卷太氏にして郡會議員は谷本半四郎氏である、村内の素封家和氣家は頗る門閥家にして彼の高僧智證大師は全家に誕生されたるものなりと

△名勝古事蹟 道善寺趾、和民道善館趾、和氣善茂館趾、和氣宅成趾、産湯堂、批把薬師等

△氏神 新羅神社、春日神社

□郡家村

△地勢 本村は仲多度郡の東北部に位し東西十七丁三十間南北二十四丁二十間の廣袤を有す、地形樹紙鳶の如く土地頗る平坦にして東は綾歌郡川西村西は本郡龍川村南は與北、垂水北は南村の五ヶ村に接す、村内には大河なく極めて水源に乏しく數箇所の溜池を以て灌漑の用に充つ、土壤豊肥にして農産に富み氣候温暖にして氷雪少く生物の發育に適せり

△管轄の沿革 本村は市町村制施行の際郡家三條の二大字を以て郡家村と稱し現今に至る

△村長は高畑信次氏にして郡會議員の平尾嘉作氏は村内に於ける徳望家である

△名勝古事蹟 酒部善里館趾、郡家古趾、金林寺趾、寶幢院趾、長福寺趾、武智万治郎墓、等

△氏神 神野神社、日吉神社

□南 村

△地勢 本村は仲多度郡の東北部に位し東西二十五丁南北二十六丁の廣表を有す、南は郡家村、西は龍川村、北方は六郷村及丸龜市に隣接し、東は綾歌郡土器村に界す、土地平坦にして最も米麥作に適す、道路は國道及郡里道あり、何れも丸龜市より起りて本村を貫通し南は琴平町を経て阿波に到り、西は伊豫に達するもの縦横數條あり、河川なく水利の便に乏し故に大なる溜池を以つて灌漑の用に充つ、土壤肥沃にして穀菜其他の農産物に富む、氣候温暖氷雪少く生物の發育に適せり

△管轄の沿革 本村は元は田村、柞原、山北の三村なりしが市町村制施行に際し合同して南村と改め、舊村は大字名として存し爾後異動なく、圓滿に自治の發達を促進せり

△村長は大岡濱治氏にして郡會議員は山内義親氏なり

△氏神は山の北に郷社八幡神社あり、往古丸龜に在りしより丸龜全市は今も其の氏子たり、高嶺神社、天満神社の村社あり、名勝古事蹟としては神光の松、法花寺趾西行三本松、田村城趾、等あり

□六 郷 村

△地勢 本村は郡の東北端に位し南は南村及龍川村に、西は豊原村に東は丸龜市に隣接す北方一帯は瀬戸内海に面す、土地概ね平坦にして鉄道及道路縱横に貫通し金倉川は西部を、沙入川は東北部を貫流し、排水灌漑に便なり、沿海は総て遠淺にして頗る魚鹽の利に富む、氣候温暖、氷雪少く、克く生業に適せり、土壤は粘、砂相半するも耕作に適せざるものなし之を以て農を専業とするもの七割、團扇、籠、麥稈、眞田の製作をなすもの鹽田に従事するもの等三割とす、而して本村に産する食鹽は最も上質にして古來鹽屋鹽の名を博せり

△管轄の沿革 本村往古は金倉郷、柞原郷に分屬し今津、上金倉、新田、鹽屋、下金倉、津森の六村なりしが明治十七年之を一區畫として一戸長役場を以て管轄するに至り明治二十三年市町村實施に際し遂に一村となり六郷村と稱し舊村區域を存して大字とし明治三十二年丸龜市制實施の際津森の内、三軒家の一部を丸龜市に編入したるの外他に異動なく今日に至れり

△村長は三谷多喜治氏にして郡會議員は横井朋太郎氏なり全氏は村内馬場甚三郎、

杉本松太郎、岡崎左吉氏等と共に何れも郡内の重鎮たり

△名勝古事蹟 中の水門、萬象園、眞嶋、揖堀の井、加治須の森、金倉城趾、金倉

顯忠墓、平尾塚、姫塚、等あり

△氏神は津森天神社、天満天神社、

八十主神社、八幡神社あり

△尙本村字塩屋には關西瓦斯株式

會社の營業所があつて全所より郡

内各地は勿論丸龜市隣郡等へ燃料

瓦斯を送つて居る

△本願寺別院 塩屋御坊と稱し建

物の宏壯なること郡内第一とす、

俘虜收容所たること二回現今獨逸

の士卒三百余名在り



香川新報西社讀當記者
秋山爲二氏

鹽飽諸島

これから島嶼の各村に入るのである、由來鹽飽諸島は、本土を離れて獨立の政体を形成し來た趣がある、此事は既に本郡の沿革に述べた如く、戦功を以て豊臣秀吉より全島總高千二百五十石を船方六百五十人に賜ひしより代々御朱印書を拜受し島民自ら島治を行ひ恰も共和政治の如く、それが島治者は、島民の推選に係る年寄にして、幕府の公認を受けたる者であつた、其年寄は自宅で事務を執て居たが寛永の頃より御朱印藏を設けて之を保管すると共に治務所の如き役所を置いた名つけて勤番所と云ふ其建築宏壯にして今に存在して居る、而して年寄は交代にして大阪町奉行所の監督の下に一般の行政及司法をも行ひ來りしが明治維新の改革に方り本島亦大小區劃の編成ありて本郡に屬し今日に至りたるものなるが尙其後の沿革等につきては各村に涉つて述べる事にする

□與島村

△地勢 本村は仲多度郡の北端瀬戸内海の海中にありて五大字の離島に、九箇の附

屬島より成る、南は綾歌郡に對し北は岡山縣兒島郡下津井町に、西は本島村と何れも一葦帶水を以て界し、東は遠く乃生岬を望む、離島中、與島、瀬居、櫃石稍々大なるも他は小島点々として地形恰も飛石の如し

△管轄の沿革 本村は町村制施行の際櫃石、岩黒、與島、砂彌、瀬居の五村を合し與島村と稱し現今に至る

△村長は東山幸壽氏で郡會議員は東山章之助氏である

△名勝古事蹟 砂彌島、三ツ子島、理源大師舊趾、與島燈台等

△氏神、八幡神社、事比羅神社、王子神社、神田神社、天津神社あり

□本島村

△地勢 本村大字本島は周圍四里十六丁にして東西に長く一里十丁あり三峯東西に並立し山麓に笠島浦、泊リ浦、小阪浦、大浦、福田浦、尻濱浦、生ノ濱浦、甲生浦の八ヶ部落を有し殆んど耕地を以て圍繞す、就中南方には水田ありて耕地多し。本島村大字牛島は周圍一里にして二峯東西に對立し南北の低地に部落あり其間道程約十丁あり

△管轄の沿革 往昔は塩飽島と稱し本島外十ヶ島を有し本村亦其内なりしが明治十七年本島及牛嶋を以て一行政區畫とし二十三年町村制實施の際遂に一村となり本島村と稱し今日に至れり

△村長は高島省三氏で郡會議員は宮本孝平氏である

△名勝古事蹟 龜岩、東山城趾、こがれ松、八ツヶ峯、勤番所等

△氏神 は郷社八幡神社、塩飽全島の崇敬社たり、村社木島神社、四社神社、三社神社、八阪神社、三所神社、徳王神社の六あり

□廣島村

△地勢 本村は仲多度郡の西北海に位する島村にして面積一方里八厘余あり、廣島手嶋、の二大字より成る廣嶋は大にして東西一里六丁南北一里十丁あり、手嶋は東西十六丁南北二十六丁外に東西九丁南北九丁の小手嶋を附屬す、廣嶋より手嶋に至る海上四十丁、手嶋より小手嶋に至る海上十六丁とす、山岳多く平地少く道路險惡にして行遠不便なり、地質砂礫多く灌溉不便なれば農産は概して收穫充分ならず氣候温暖氷雪なし

△管轄の沿革 明治十七年廣嶋、手嶋を一行政区畫となしたりしが町村制實施の際一村となり廣嶋、手嶋の二大字を有し廣島村と稱し現今に至れり

△村長は目下欠員中なるが此程病氣の故を以て退職したる田中眞一氏は實に地方の功績者として明治三十二年賞勳局より藍綬褒章を下賜されたる人にして郡會議員は林兵太郎氏である

△氏神 廣嶋神社、賀茂神社、青埜神社、八幡神社、壺竈神社、八幡神社、聖神社の七社あり

□高見島村

△地勢 本村は西端東徑六度〇九、北緯三十四度二〇に位し東西一里二十六丁強、南北二十三丁餘にして西方より漸次南方に高く、恰も牛背の形狀を成し急峻にして平地少く畑山林大約相半す、而して其西端は岩石頗る多く南は粟嶋に東は丸龜に面し東北は廣嶋に對し北は小嶋に西は佐柳嶋に接近す、風光は稍や明眉なるも水利の便に乏し故に各所に巨大なる共有井を設備し旱害の用に供す、土壤概ね肥沃にして比較的農産及林産に富む、氣候溫暖にして氷雪少く生業に宜し、住民中婦女子は専



尾松政次郎
郡參事會
松政次郎
氏

ら農業を事とし傍ら麥稈眞田及苦の製造を爲し男子は工業者多く漁業之れに次ぐ
△管轄の沿革 本村は字浦、濱、板持の三部落より成り、明治十七年佐柳島外一ヶ村の行政区畫に包擁せしが二十三年市町村制實施の際は獨立して高見島村と稱し以て現今に至る

△村長は宮崎安吉氏で郡會議員は佐柳島村と兩村より選出の宮崎八介氏である
△氏神 八幡神社

□佐柳島村

△地勢 本村は仲多度郡西北端に位し東西十三丁南北二十四丁の廣袤を有し平地少く耕地は恰も階段の如し、西北は海を隔て、



地方功績者
藍綬章拜受者
中田眞一
氏

備中小田郡真鍋村に對し東南は海を隔て、多度津町及三豊郡に對し一帯の山岳南北に横臥せり、土地は肥沃にして農産に富む、氣候溫暖なれば雪少く生物の發育に適せり

△管轄の沿革 本村は明治元年より同十二年まで塩飽諸島を以て第六區六小區と稱せしを全十三年分離して佐柳、高見、牛島と稱し居りしに全十七年行政區域を改正あり佐柳島、高見島、二ヶ村を以て一區畫とし佐柳島外一ヶ村となりしが全二十三年町村制施行の際分離して佐柳島一島一村として以て今日に至る
△村長は吉田倉吉氏で郡會議員は高見島村と兩村より選出の宮崎八介氏である
△氏神 八幡神社

體育器械商

— 木製品、設計工作請負 —

○新案 登錄 自動注油式廻旋塔機

○新案 登錄 都村式體操器械

○新案 登錄 金棒用鞆

製作發賣

◎詳細ナル目錄書御申越次第送呈ス

香川縣琴平町 都村有爲堂

電話長一五七二番
振替大阪一五七二番

備中小田郡真鍋村に對し東南は海を隔て、多度津町及三豊郡に對し一帯の山岳南北に横臥せり、土地は肥沃にして農産に富む、氣候溫暖なれば雪少く生物の發育に適せり

△管轄の沿革 本村は明治元年より同十二年まで鹽飽諸島を以て第六區六小區と稱せしを全十三年分離して佐柳、高見、牛島と稱し居りしに全十七年行政區域を改正あり佐柳島、高見島、二ヶ村を以て一區畫とし佐柳島外一ヶ村となりしが全二十三年町村制施行の際分離して佐柳島一島一村として以て今日に至る
△村長は吉田倉吉氏で郡會議員は高見島村と両村より選出の宮崎八介氏である
△氏神 八幡神社

體育器械商

— 木製品、設計工作請負 —

- 新案 自動注油式廻旋塔機
 - 新案 都村式體操器械
 - 新案 金棒用鞆
- 製作發賣

◎詳細ナル目錄書御申越次第送呈ス

香川縣琴平町 都村有爲堂

電話長一五七二番
振替大阪一五七二番

資本金五十萬圓

營業科目 株式會社

月掛貯金、定期、小口、貯蓄、
當座預金、諸貸付
東京市麴町區麴町三丁目四番地

昌榮貯蓄銀行
善通寺總代理店

善通寺町中通リ
電話 四一〇番

大見 代理店
三豐郡大見村字原

麻村 代理店
三豐郡麻村下麻

登錄名
金

金毘羅

船々せんべい

琴平公園角

本舖 船々堂

資本金五十萬圓

營業科目 株式會社

昌榮貯蓄銀行

總代理店 善通寺

代理店 大見

代理店 麻村

月掛貯金、定期、小口、貯蓄、
當座預金、諸貸付
東京市麴町區麴町三丁目四番地

善通寺町中通り
電話長四一
番

三豐郡大見村字原

三豐郡麻村下麻

登名錄物 **金**

金毘羅

船々せんべい

琴平公園角

本舖 船々堂

明治四十年
設立 仲多度郡善通寺町

藁吹繩製造販賣

① 有限 仲多度郡生産販賣購買組合

金藏寺驛ヨリ西二丁

電信畧號(ナカ)又(ナ)

善通寺驛北 (郡役所より東半丁)

内科 小兒科 川村病院

院長 正六位 醫學士 川村泰次郎

電話三七番

資本金五十萬圓

株式會社

明

正

銀

行

善通寺町中通町
元立木寫真館跡

(郵便局ヨリ西四軒目
温泉湯ヨリ東三軒目)

(長電話一七番)

縣内出張所

三豊郡上高瀬村
淡路洲本町出張所

縣外支店

愛媛縣喜多郡五十崎村

五十崎支店

洲本支店

當銀行の特色

一、華客本位で預金は高歩に貸金は低利に御取引勉強致します
 二、取引は凡て確實を旨とし迅速簡便に御取扱致します
 三、営業時間を延長し努力を吝まず華客の御便利を計ります
 四、預金は關西貯蓄銀行善通寺支店が當銀行内にありますから壹錢以上御
 預り申す
 五、貸金は拾圓以上御用立ます

善通寺偕行社東側

産科
婦人科
古市醫院

(入院隨意)

善通寺町中通

大鳥醫院

諸荒物、八百物
疊表、糸物 商

陸軍
御用達 車屋萬店

店主 原 今太朗

善通寺中通町
郡役所ヨリ西一丁

御料理
仕出し 生魚商 魚七

電話架設申込中

製造
登錄 八千代足袋 毛織物類
帽子。洋服。靴。防寒具
馬具。革具。調革類



商標 陸海軍諸官衙拂下品
卸商

香川縣善通寺町

千葉商會

長電話 二二三番
振替口座大阪 二一九五番

千葉商會運送部

岡山市丸龜町八番地
振替口座大阪 二〇八七番

千葉商會岡山支店

振替口座大阪 三〇〇三七番

善通寺中通町西詰

內科 小兒科 眼科
新居醫院

清酒 男山男竹釀造元

多度津町 酒造場

商號竹屋 長電話 六六一番
振替大阪 二六六三四

優良清酒



釀造元 多度津町 山本林藏

醬油釀造

登錄商標



多度津町
合名會社

松尾商會

琴平新町

琴平

支店

長電二番

麥稈眞田貿易商

多度津門前町

信

久

組

長電七番

善通寺町赤門筋

齒科診療

矢野齒科醫院

院長 矢野善寬

技工部 菅田常吉

本院丸龜市西平山町

診療時間

善通寺 午前八時より三時迄
丸龜 午後三時より十時迄

善通寺町赤門大通
仲多度郡役所ヨリ北半丁

川崎眼科醫院

川崎源十郎

善通寺町中通町

內科
耳鼻喉科
專門
森村一郎

尼崎汽船(中國九州航路)

宇和嶋運輸會社汽船(伊豫宿毛航路)

多度津笠岡間正宗丸

多度津玉嶋間高砂丸

多度津町

元扱店 讚榮舍

長電四番

大阪商船株式會社客扱店

多度津運送合資會社

多度津港

長電話十番

多度津港

多度津製粉所

長電話五十五番

弘法大師御誕生地
客室清潔

本館ハ町
ノ中央ニ
在リ御投
宿最モ御
便利ナリ

目印



第十親師團所在地
一切師團所在地

善通寺町中通リ

電話二番

齒科專門

多度津町

笠井

齒科醫院

善通

寺分院

琴平

分院

(診察午前八時ヨリ午後二時迄)

(診察午後三時ヨリ六時迄)

(診察午後六時ヨリ九時迄)

診療 每日 午前八時より午後六時迄

善通寺齒科醫院

善通寺大通町宮崎内

肥料 鹽 卸賣 小賣

琴平町

讚岐産業合資會社

長電十八番

吳服販賣洋服調進

江州上屋

吳服店

琴平新町

株式會社 琴平銀行

長電 六番

多度津支店

長電 十一番

瀧宮支店

阿波

池田支店

岡田出張所

御得意様の便利を主旨と
時間外の取扱も可致候

國産の霸王



純舶來
最高等
クリスタ號

藤井白轉車商店

善通寺練兵通
電話 一 一 二 番

勤儉治産の主旨に遵ひ正實に業務取扱申
べく候

- 一 普通定期預金
- 一 教育資金 特別定期貯金
- 一 實業資金 三年、五年、八年積立
- 一 短期特別融通

株式會社 帝國實業貯蓄銀行

善通寺代理店

香川縣善通寺町上吉田
大通百二十番戶

電話 二 八 番

本店 東京市京橋區南鞘町三九番地

小野醫院

善通寺町生野

善通寺偕行社前

清酒釀造元 丸尾商店

店主 丸尾重雄



本誌寫眞擔任技師 植村不

豫て善通寺町に
て立木寫眞館の
技師として勤め
居りしが其後宮
崎縣宮崎町に於
て寫眞館を開き
研究を積む事數
年去る一月以來
病氣の爲め歸國
療養中なるが本
年秋頃迄には當
地にて開業の筈

大正五年四月二十一日印刷
大正五年四月二十六日發行

香川縣仲多度郡善通寺町二百番地

編輯兼發行者 宮武福太郎

同縣同郡同町四百四十二番地

印刷者 樋笠彦治

全所 樋笠鷓鳴堂

印刷所 樋笠鷓鳴堂

同縣同郡同町二百番地

發行所 仲多度郡
案內發行所



白川呉服店

本店 仲多度郡善通寺町

(長電四二番)

支店 三豊郡観音寺町

(長電六一番)

10

10

支店 三豊郡観音寺町

339
695

終